

平成 30 年度カット野菜・冷凍野菜・野菜惣菜  
に係る小売販売動向調査

報 告 概 要

令和元年 9 月

独立行政法人農畜産業振興機構

# 目 次

## I. 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査方法	
(1) 調査対象期間	1
(2) 調査対象店舗	1
(3) 収集 POS データから関連データを抽出する方法	1
(4) POS データの分類方法	2
(5) POS データの出力項目及び集計方法	3

## II. 調査結果の概要

1. 年次別推移	
(1) アイテム数の推移	4
(2) 千人当たりの販売金額の推移	5
2. 月別平均販売価格の推移	6
3. 月別千人当たり販売金額の年次別推移	
(1) カット野菜	
① サラダ	7
② カット	8
③ 惣菜サラダ	9
④ キット	9
(2) 冷凍野菜	
① 冷凍	10
② 冷凍調理	10
(3) 野菜惣菜	11
4. 品目別動向	
(1) カット野菜	
① サラダ	11
② 惣菜サラダ	12
③ カット	13
④ キット	14
(2) 冷凍野菜	
① 冷凍	15
② 冷凍調理	15

(3) 野菜惣菜	
① 和惣菜	16
② 豆類（煮豆、惣菜豆）	17
③ 洋惣菜	18
④ 中華惣菜	19
5. 家計調査における購入動向	
(1) 生鮮野菜	20
(2) サラダ、冷凍調理、惣菜	22
(3) 品目別購入動向	23
6. 今後の野菜消費の動向	
(1) 年齢階層別野菜消費の動向	
① 生鮮野菜	25
② サラダ	26
③ 冷凍調理食品	27
④ 他の調理食品のその他（惣菜等）	28
(2) 今後の野菜消費	28
<b>Ⅲ. 市場規模の推計</b>	
1. カット野菜	30
2. 冷凍野菜	31
3. 野菜惣菜	31

## I 調査概要

### 1. 調査目的

近年、家計において購入が増加しているカット野菜、冷凍野菜、野菜を主体とした惣菜（以下、「野菜惣菜」という。）について、平成 21 年から平成 30 年までの POS（Point of Sales、販売時点情報管理）データを収集し、小売店における販売金額等の動向を調査することで、直近の需要動向を把握し、今後の野菜の需給安定の取組みに当たっての基礎資料とすることを目的として本調査を実施した。

なお、調査対象とした「カット野菜」「冷凍野菜」「野菜惣菜」の分類は以下のとおり。

#### 1. カット野菜

- ① カット : 野菜を単にカット・パックしたもの（味付け等の調理のないもの）
- ② サラダ : サラダ用に複数の野菜をカット・パックしたもの
- ③ 惣菜サラダ : サラダに味付け等の調理をしたもの（ポテトサラダを含む）
- ④ キット : 鍋セットなど調理に合わせた野菜等のセット  
（2分の1カットや4分の1カット等単価の逡減等のためにカットした野菜を除く）

#### 2. 冷凍野菜

- ① 冷凍 : 野菜をカット・冷凍しパックしたもの（味付け等の調理のないもの）
- ② 冷凍調理 : 野菜を主体とした冷凍調理食品（フライドポテトを含む）

#### 3. 野菜惣菜

野菜を主体とした惣菜（和惣菜、煮豆、洋惣菜、中華惣菜、その他惣菜）

### 2. 調査方法

#### (1) 調査対象期間

平成 21 年 1 月から平成 30 年 12 月まで

#### (2) 調査対象店舗

（株）KSP-SP が収集している全国のスーパーマーケット（平成 30 年 12 月時点で 150 企業 約 1,058 店舗）。

#### (3) 収集 POS データから関連データを抽出する方法

JICFS 分類\*の「生鮮食品」における「農産」の「その他農産」及び「その他生鮮食品」、「冷凍食品」における「冷凍農産素材」及び「冷凍調理」、「惣菜類」における「和惣菜」「洋惣菜」「中華惣菜」「その他惣菜」「サラダ」に属する POS データ（アイテム群）から、カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜に属する POS データ（アイテム群）を抽出。

#### (4) POS データの分類方法

抽出した POS データを以下のとおり分類した。

##### ① カット野菜

###### ア. カット

「その他農産」に属し、商品名に野菜名称及び「千切り、刻み、カット」等のワードが含まれているアイテムを「カット」に分類し、商品名に野菜品目名称があるアイテムは品目別の、ないアイテムは「ミックス」のカットとした。

###### イ. サラダ

「その他農産」に属し、商品名に野菜名称及び「サラダ」というワードが含まれているアイテムを「サラダ」に分類し、商品名に野菜品目名称があるアイテムは品目別の、ないアイテムは「ミックス」のサラダとした。

###### ウ. キット

「その他農産」又は「その他生鮮食品」に属し、商品名に「炒め用」や「鍋用」などの用途のワードが含まれているアイテムを「キット」に分類し、商品名に野菜品目名称があるアイテムは品目別の、ないアイテムで野菜を使用しているものは「ミックス」のキットとした。

###### エ. 惣菜サラダ

「惣菜類」の「サラダ」に属し、商品名に野菜名称が含まれているアイテムを「惣菜サラダ」に分類し、商品名に野菜品目名称があるアイテムは品目別の、ないアイテムは「ミックス」の惣菜サラダとした。

##### ② 冷凍野菜

ア. 「冷凍農産素材」に属し、商品名に野菜名称が含まれるアイテムを「冷凍」に分類し、商品名に野菜品目名称があるアイテムは品目別の、ないアイテムは「ミックス」の「冷凍」とした。なお、フライドポテトは、総務省家計調査年報の商品分類に基づき「冷凍調理」に分類した<sup>(注1)</sup>。

イ. フライドポテト及び「冷凍調理」に属し商品名に野菜名称が含まれるアイテムを「冷凍調理」<sup>(注2)</sup>に分類し、商品名に野菜品目名称があるアイテムは品目別の、品目を特定できないアイテムは「その他冷凍調理」とした。

##### ③ 惣菜

「和惣菜」「洋惣菜」「中華惣菜」「その他惣菜」「煮豆」に属し、商品名に野菜名称があるアイテム又は「なます」等の野菜を主体とした惣菜のアイテムを「野菜惣菜」に分類し、商品名に野菜名称があるアイテムを品目別の「野菜惣菜」<sup>(注3)</sup>、品目を特定できないアイテムは「その他野菜惣菜」とした。

(5) POS データの出力項目及び集計方法

出力項目及び集計方法は表 1 のとおり。

表 1 POS データの出力項目及び集計方法

項目	月別データ	年別データ
アイテム数	商品コードの集計値	合計値は、月別の重複を避けた値
販売金額（税抜、円）	販売金額の集計値	月別集計値の合計
来店客数	全店舗来店客数	月別集計値の合計
千人当たり販売金額（税抜、円）	月別販売金額の合計を月別来店客数で除して 1000 を乗じた値の集計値 <small>（地域や業態の規模、収録店舗数の変動に影響なく商品の売れ行きを計ることができる指標）</small>	年間販売金額の合計を年間来店客数で除して 1000 を乗じた値の集計値

※ JICFS とは、JAN Item Code File Service の略称で、財団法人流通システム開発センターが管理運営を行う「JAN コード商品情報データベース」システムを指し、JICFS 分類は、本データベースに収録された JAN コード商品情報を効率よく利用できるように設定された JICFS 用の商品分類コード。

(注 1) フライドポテトは、JICFS 分類においては「冷凍農産素材」に分類されるが、総務省家計調査においては「調理食品」の「他の調理食品」の「冷凍調理食品」であることから、「冷凍調理」（野菜を主体とした冷凍調理食品）に分類した。

(注 2) 「冷凍調理」は、餃子などの野菜が主体でない冷凍調理食品を含まない。

(注 3) 「野菜惣菜」は、餃子などの野菜が主体でない惣菜を含まない。

(留意事項)

本調査の使用に際しては、集計に用いた POS データには、コンビニエンスストア、大型総合スーパーのデータが含まれていないことを留意する必要がある。

## II 調査結果の概要

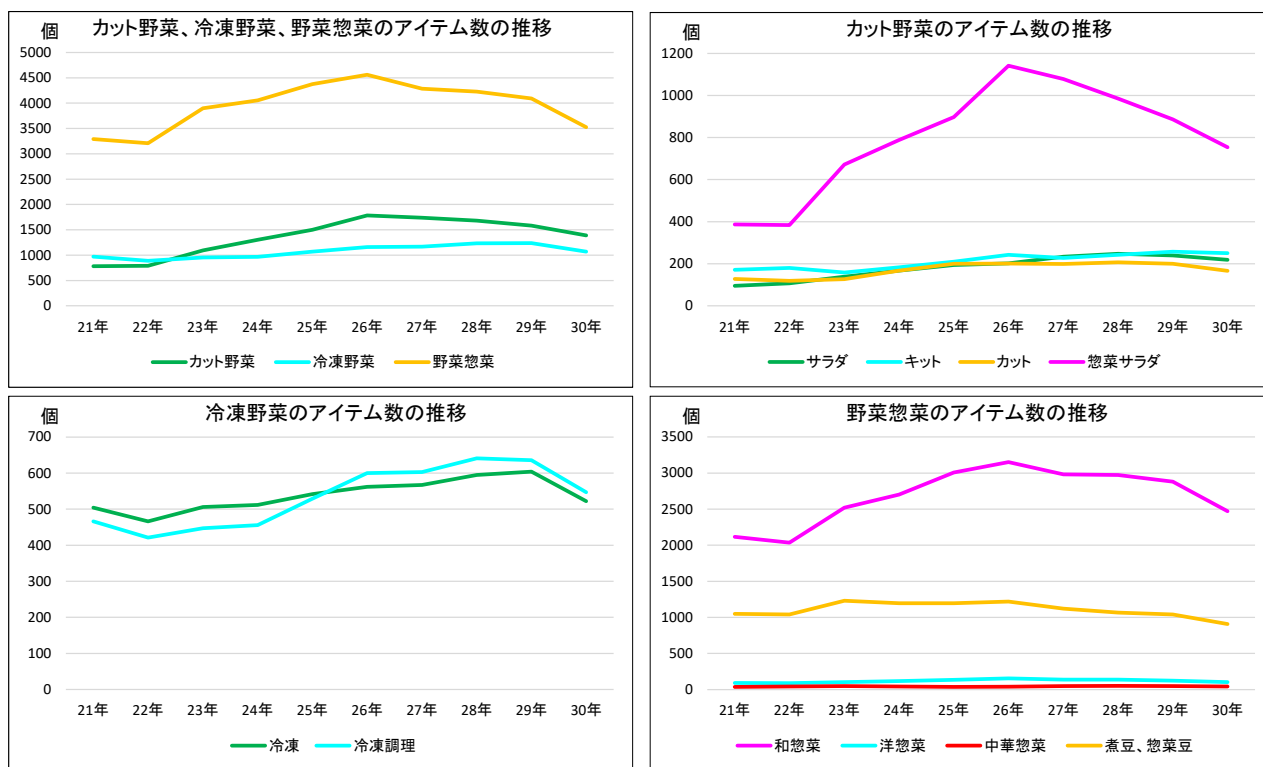
### 1. 年次別推移

#### (1) アイテム数の推移

カット野菜、冷凍野菜及び野菜惣菜のアイテム数は、平成23年から26年までは、需要の増加、プライベートブランドの普及等により増加傾向であったが、27年以降は商品の集約化により減少傾向となっている。

分類別で見ると、カット野菜では、「サラダ」が増加傾向で推移していたが29年以降は緩やかな減少に転じ、「惣菜サラダ」は、23年から26年までは大幅な増加傾向であったが27年以降は減少傾向に転じている。「キット」及び千切りキャベツなどの「カット」は、ともに増加傾向から27年に減少した後、「キット」は28年は増加に転じ、29年以降は前年並みで推移し、「カット」は、28年に増加に転じたものの29年以降は減少傾向に転じている。

図1 アイテム数の年次別推移



冷凍野菜では、冷凍ほうれんそうなど一つの品目を冷凍した「冷凍」及び「冷凍調理」は、22年までは冷凍企業・工場の減少などから減少傾向で推移していたが、23年～26年は増加傾向、27年～28年は緩やかな増加傾向で推移したが、冷凍は30年、冷凍調理は29年に減少に転じている。

野菜惣菜では、和惣菜が23年から26年は増加傾向であったが27年以降は減少傾向に転じ、豆類（煮豆＋惣菜豆）は増加傾向から24年以降に緩やかな減少傾向に転じ、洋惣菜と中華惣菜は、ほぼ横ばいで推移している。

(2) 千人当たり販売金額の推移

① カット野菜

千人当たり販売金額の平均増減率は、前期（21年～25年）ではサラダ、キット、カット、惣菜サラダのいずれにおいても大幅な増加であったが、後期（26年～30年）では、キットが前期を上回る増加率となったものの、サラダとカットの増加率は前期を下回り、惣菜サラダにおいては29年に減少に転じ、0.3%減と小幅ながら減少に転じている。

③ 冷凍野菜

前期の平均増減率は、冷凍が5%増、冷凍調理が4%増であったが、後期では、冷凍が7%増と前期を上回る増加率となったが、冷凍調理は28年に減少に転じたことから2%減と減少傾向に転じている。

③ 野菜惣菜

和惣菜及び豆類（煮豆、惣菜豆）が販売金額の太宗を占めているが、前期の平均増減率は、和惣菜が15%増と大幅な増加、中華惣菜が6%増、豆類が3%増となる中、洋惣菜は微増で推移した。一方、後期においては、洋惣菜が10%増と大幅な増加、和惣菜が緩やかな増加、豆類が微増となる中、中華惣菜は29年に減少に転じたことから2%減と減少傾向に転じている。

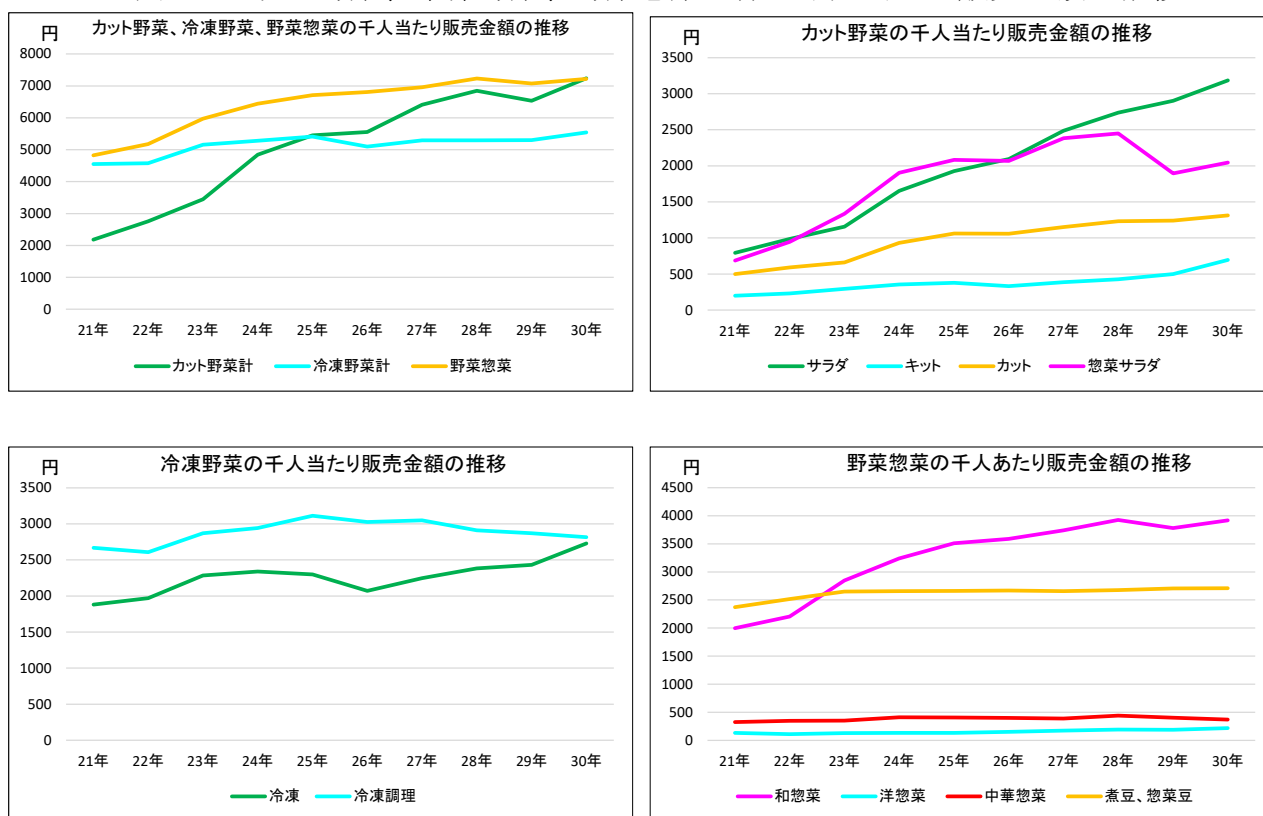
表2 千人当たり販売金額及び平均増減率

品目	類	千人当り販売金額(円)											
		21年	22年	23年	24年	25年	前期平均増減率(%)	26年	27年	28年	29年	30年	後期平均増減率(%)
カット野菜	サラダ	794.67	988.13	1156.92	1652.44	1928.29	24.81%	2094.18	2487.51	2738.99	2900.83	3184.92	11.05%
	キット	200.75	231.38	295.17	356.03	377.52	17.10%	332.79	386.84	427.38	498.78	695.60	20.24%
	カット	500.00	591.72	660.54	932.38	1062.17	20.73%	1057.46	1152.08	1232.28	1240.15	1311.52	5.53%
	惣菜サラダ	686.40	947.14	1336.85	1904.20	2082.77	31.98%	2068.08	2383.98	2449.43	1894.22	2043.97	-0.29%
	カット野菜計	2181.82	2758.38	3449.49	4845.04	5450.76	25.72%	5552.52	6410.41	6848.06	6533.97	7236.01	6.84%
冷凍野菜	冷凍	1879.80	1971.08	2283.65	2340.33	2299.79	5.17%	2071.82	2246.03	2382.59	2430.76	2728.62	7.13%
	冷凍調理	2668.21	2606.96	2870.58	2941.12	3112.92	3.93%	3026.01	3050.33	2910.61	2871.44	2816.00	-1.78%
	冷凍野菜計	4548.01	4578.04	5154.23	5281.45	5412.71	4.45%	5097.83	5296.36	5293.20	5302.20	5544.61	2.12%
野菜惣菜	和惣菜	1996.14	2206.94	2845.14	3240.93	3512.15	15.17%	3588.03	3740.59	3927.46	3780.62	3918.20	2.23%
	洋惣菜	133.46	110.00	127.44	131.45	133.68	0.04%	151.43	172.10	190.40	188.47	218.79	9.64%
	中華惣菜	323.64	346.37	351.32	410.48	405.03	5.77%	398.21	387.92	439.42	402.48	368.93	-1.89%
	韓国惣菜	.00	.00	.00	.00	.00	-	.00	.19	1.12	.00	.30	-
	野菜惣菜 小計	2453.23	2663.32	3323.90	3782.86	4050.86	13.36%	4137.67	4300.81	4558.40	4371.58	4506.22	2.16%
	煮豆	2002.57	2070.65	2163.64	2128.98	2116.39	1.39%	2071.75	1989.32	2002.44	2020.84	1966.20	-1.30%
	惣菜豆	369.23	444.35	486.08	530.47	544.19	10.18%	597.22	669.92	672.33	684.91	743.03	5.61%
	煮豆・惣菜豆計	2371.79	2515.00	2649.73	2659.44	2660.57	2.91%	2668.97	2659.24	2674.76	2705.75	2709.23	0.38%
野菜惣菜 計	4825.02	5178.32	5973.63	6442.30	6711.43	8.60%	6806.64	6960.05	7233.16	7077.32	7215.45	1.47%	
合計	11554.85	12514.74	14577.34	16568.79	17574.90	11.05%	17456.98	18666.82	19374.43	18913.49	19996.08	3.45%	

注：29年の数値は、29年に係るPOSデータにおいて追加・修正が行われたことにより、前年公表した数値とは異なる。



図2 カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜に係る千人当たり販売金額の推移



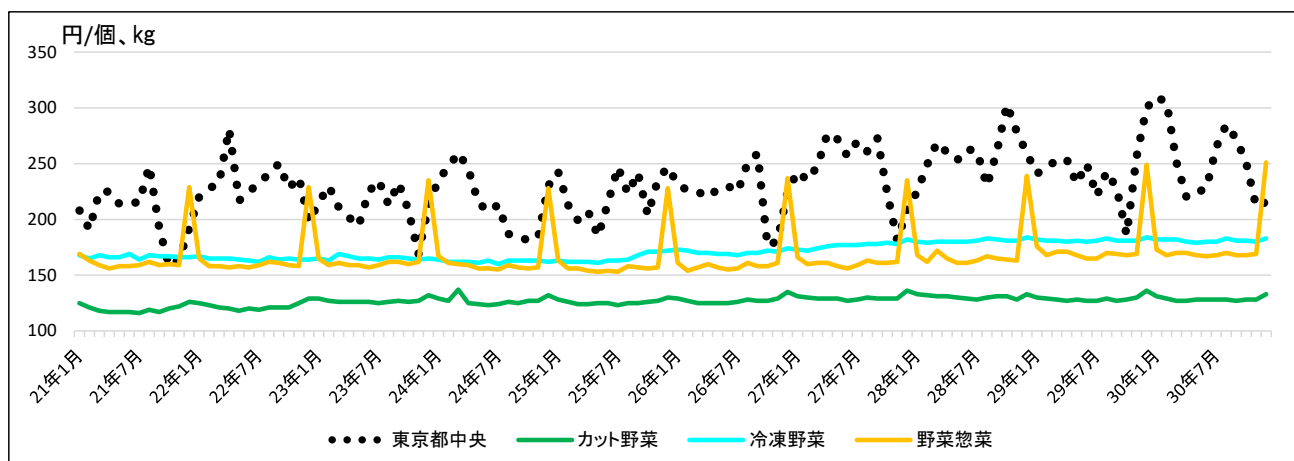
## 2. 月別平均販売価格の推移

販売金額を販売個数で除した平均販売価格は、カット野菜ではほぼ一定に推移し、冷凍野菜では26年以降に緩やかな上昇傾向に転じ、野菜惣菜では12月がパーティーや正月向けの商材により大きく上昇するものの12月以外では変動は小さく緩やかな上昇傾向で推移している。

カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜の販売価格は、原料野菜価格の高騰時には内容量の調整、原料野菜の構成の調整等が行われることがあるため正確な時系列の比較はできないが、1個当たりの平均販売価格を見ると、野菜惣菜の12月を除き、緩やかな上昇傾向で推移している。

一方、生鮮野菜の購入価格が高値で推移した月が多かった27年～30年においても（図5）、カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜の各平均販売価格（図3）の上昇は小幅なものにとどまっており、原料野菜の価格は季節的又は気象要因による変動があるものの、カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜の販売価格は、原料野菜の価格変動の製品価格への転嫁は小さいと推察される。

図3 カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜の月別平均販売価格の推移



資料：東京都中央卸売市場年報

### 3. 月別千人当たり販売金額の年次別推移

#### (1) カット野菜

##### ① サラダ

サラダの月別千人当たり販売金額の年次別推移（図4）を見ると、前期（21年～25年）は、生鮮野菜の価格変動（図5）にかかわらず増加傾向で推移しているが、後期（26年～30年）は増加傾向で推移する中、生鮮野菜の購入価格が上昇した期間、特に28年10月～29年9月及び29年11月以降の金額は大幅な増加となっている。

家計における生鮮野菜の購入価格とサラダの購入の関係を、生鮮野菜の購入価格（総務省、家計調査における生鮮野菜の購入価格（きのこ類、もやしを除く））とサラダの千人当たり販売金額の相関係数で見ると、前期におけるは家計のサラダの購入は、千人当たり販売金額が増加傾向（需要が増加傾向）にある中で相関係数は0.28と相関は弱く、生鮮野菜の価格変動による影響は小さい。

一方、後期においては、平均増加率が前期に比べ緩やかな増加傾向となる中（表2）、相関係数は0.59と強くはないものの、生鮮野菜の購入価格が上昇した時には、千人当たり販売金額が増加（需要が増加）するプラスの相関を示している。

家計におけるサラダの購入は、前期は増加傾向で推移する中、生鮮野菜の価格変動による影響は小さく、カット野菜の利便性等が評価され、サラダの購入は増加（需要は増加）したと推察され、後期においては増加傾向が継続する中、生鮮野菜の購入価格の変動に伴いサラダの購入も変動していると推察される。

図4 サラダの月別千人当たり販売金額の年次別推移

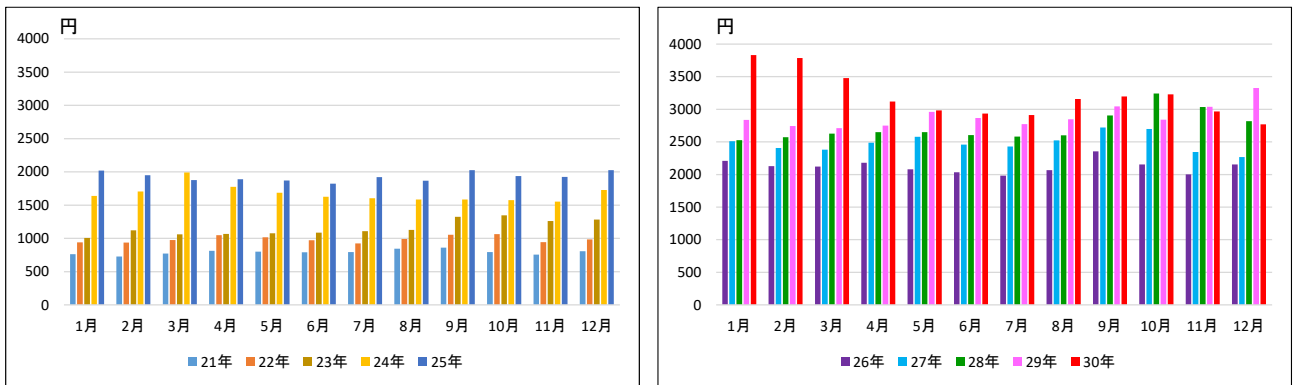
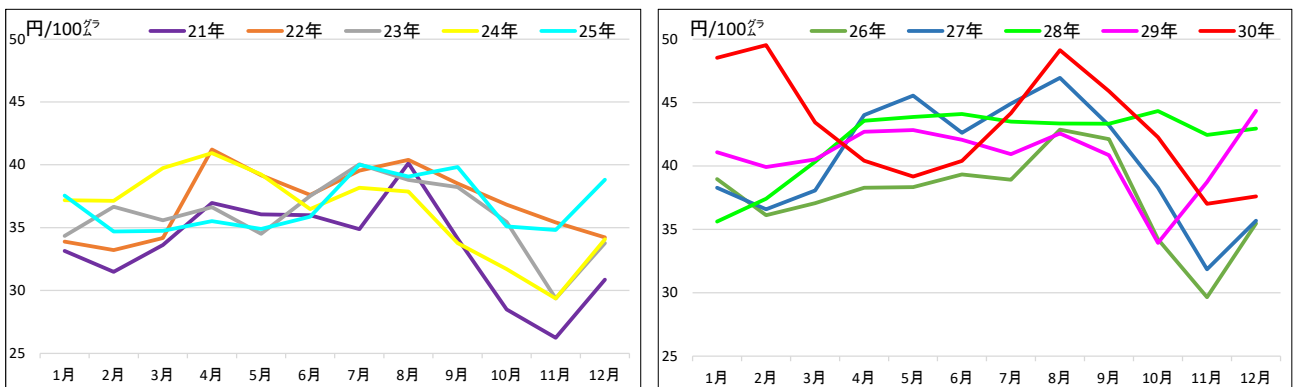


図5 家計調査 生鮮野菜の月別購入価格の推移



総務省、家計調査年報

注1：もやし、きのこを除く生鮮野菜の購入価格

2：生鮮野菜購入数量・金額には、カット（千切りキャベツなどの単品のカット野菜）と冷凍（冷凍ほうれんそうなどの単品の冷凍野菜）が含まれる。

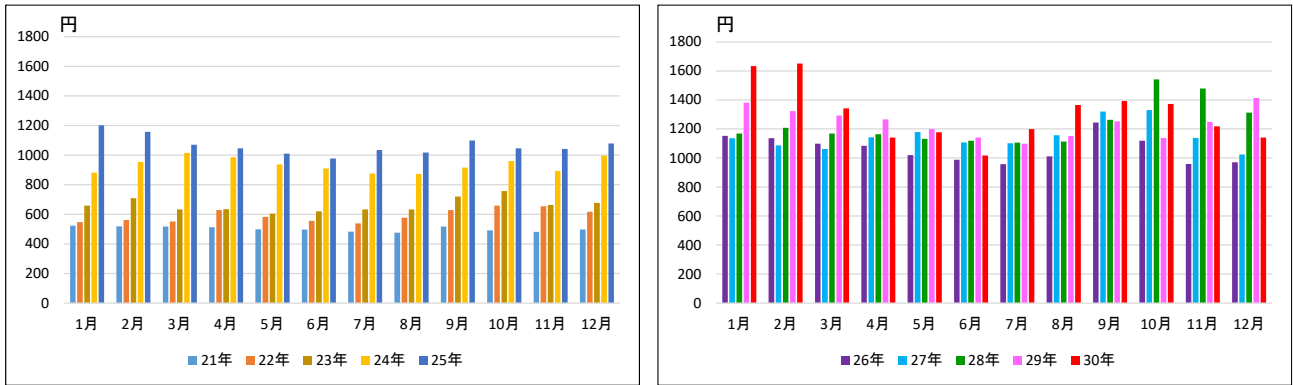
② カット（千切りキャベツなど一品目の野菜をカット・パックしたもの）

カットの月別千人当たり販売金額は、前期はサラダと同様に、生鮮野菜の価格変動（図5）に関わりなく増加傾向で推移し、後期は増加傾向で推移する中、生鮮野菜の購入価格の変動に伴い増減している。

平均増減率（表2）が前期20%増から後期5%増と大幅に低下する中、生鮮野菜の購入価格と千人当たり販売金額の相関係数は、前期は0.23と弱い、後期は0.56と強くはないものの生鮮野菜の購入価格が上昇した時には千人当たり販売金額が増加するプラスの相関を示している。

家計におけるカットの購入は、前期はサラダ同様に、その利便性等が評価され生鮮野菜の価格変動に影響されることは少なくカットの購入は増加（需要は増加）したと推察され、後期は26～28年では生鮮野菜の価格変動に影響されることは少なく増加傾向で推移し、29～30年では生鮮野菜の購入価格の変動に伴い、カットの購入も変動していると推察される。

図6 カットの月別千人当たり販売金額の年次別推移



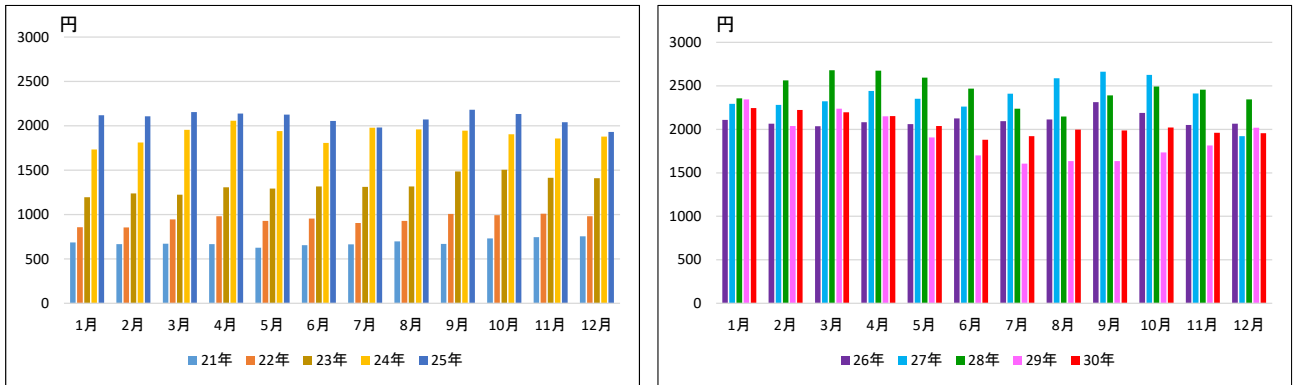
③ 惣菜サラダ（サラダに味付け等の調理をしたもの）

惣菜サラダにおける生鮮野菜の購入価格と千人当たり販売金額の相関係数は、前期、後期とも0.13と小さく、惣菜サラダの購入は生鮮野菜の価格水準によっては変動していない。

千人当たり販売金額は、前期は増加傾向で推移していたが、後期には緩やかな増加傾向から29年以降は減少に転じている。

29年以降の惣菜サラダの購入は、「4 品目別動向」で後述するように、サラダの購入にシフトし減少したと推察される。

図7 惣菜サラダの月別千人当たり販売金額の年次別推移



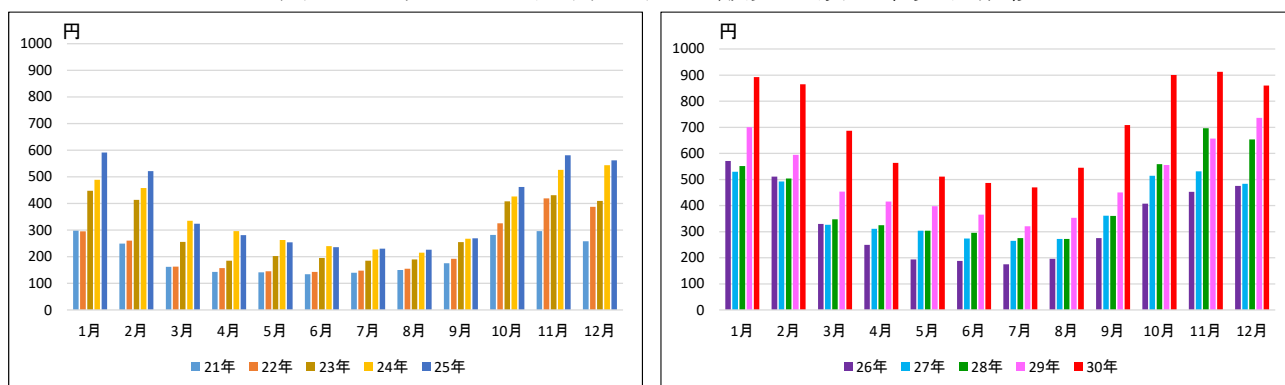
④ キット

一方、キットは、冬季の鍋物需要を背景に1月～2月及び10月～12月の購入が多く、季節による変動が大きい。一方、平均増減率（表2）を見ると、前期17%、後期20%と大幅な増加傾向で推移している。

前期は一年を通じて増加傾向で推移していたが、後期は26年～28年の緩やかな増加傾向から29年～30年においては大幅な増加傾向に転じている。

増加しているキットを見ると、鍋物用キットや野菜の炒物用キット等が増加している。カット野菜の需要は、サラダ需要に加え鍋物等の調理用キットの需要が増加している。

図8 キットの月別千人当たり販売金額の年次別推移



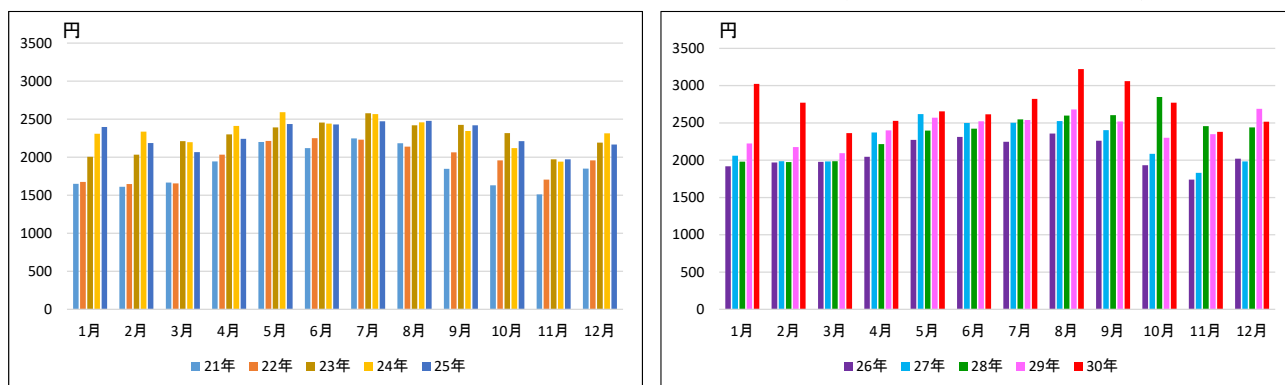
(2) 冷凍野菜

① 冷凍（冷凍ほうれんそうなど一品目の野菜を冷凍パックしたもの）

冷凍の月別千人当たり販売金額の年次別推移を見ると、前期はおおむね増加傾向で推移し、後期は26年に農薬混入事件により減少したものの、その後の生鮮野菜の購入価格の上昇(図5)を背景に増加傾向で推移し、30年においては生鮮野菜の購入価格が高騰した月に大幅な増加となっている。

生鮮野菜の購入価格と冷凍の千人当たり販売金額との相関係数は、前期が0.64、後期は0.80と後期は強い相関を示している。家計における冷凍の購入は、生鮮野菜の購入価格の上昇時には生鮮野菜の代替需要により増加すると推察される。

図9 冷凍（単品の冷凍野菜）の月別千人当たり販売金額の年次別推移

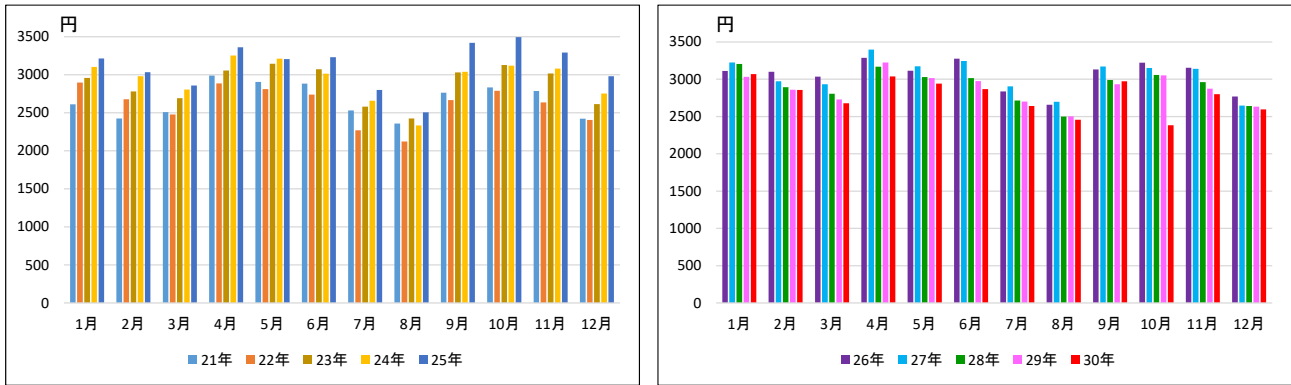


② 冷凍調理（野菜を主体とした冷凍調理食品（フライドポテトを含む））

冷凍調理の千人当たり販売金額は、前期はおおむね増加傾向で推移したものの、後期は野菜惣菜との競合もあり減少傾向に転じている。

生鮮野菜の購入価格と冷凍野菜の千人当たり販売金額との相関係数は、前期、後期とも小さい。

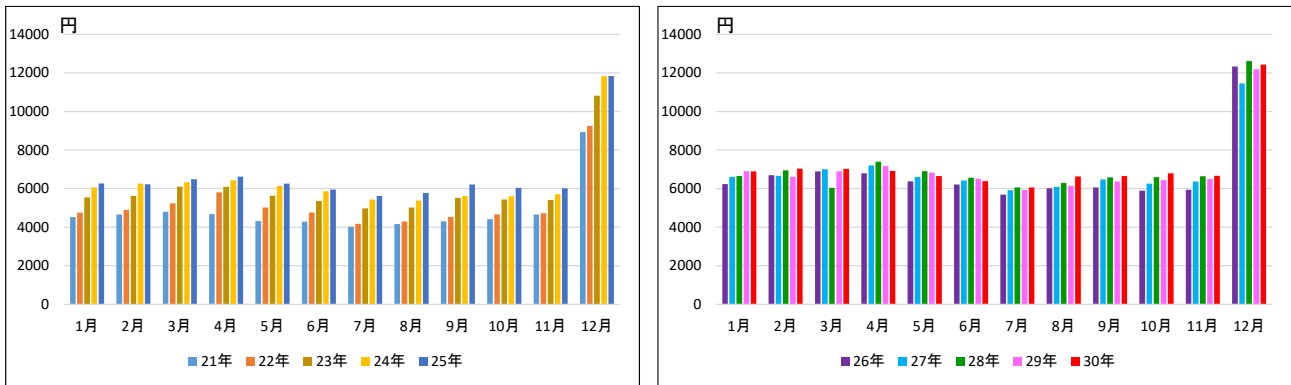
図 10 冷凍調理（野菜が主体の冷凍調理食品）の月別千人当たり販売金額の年次別推移



### (3) 野菜惣菜

野菜惣菜の月別千人当たり販売金額の年次別推移を見ると、パーティーや正月用の需要が増加する12月を除いて安定して推移している。経年で見ると、前期は増加傾向であるが、後期は総じて緩やかな増加傾向で推移している。

図 11 野菜惣菜（野菜が主体の惣菜）の月別千人当たり販売金額の年次別推移



## 4. 品目別動向

### (1) カット野菜

#### ① サラダ

サラダの千人当たり販売金額は、21年795円から30年3,185円と大幅な増加となっている。主な品目は、「ミックス」、次いで「キャベツ、レタス、だいこん、コーン、たまねぎ」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「ミックス、キャベツ」が大幅な増加、「たまねぎ、だいこん」等が増加し、後期では「レタス、ミックス」が大幅な増加、「コーン、キャベツ、だいこん」等が増加している。

一方、減少している品目は、「みず菜、ピーマン（パプリカを含む）」であり前期と後期を通じて減少傾向となっている。

表3 サラダの品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	794.67	1928.29	1133.62	24.81%	2094.18	3184.92	1090.74	11.05%
ミックス	619.45	1495.21	875.76	24.64%	1576.16	1893.08	316.92	4.69%
キャベツ	33.06	173.72	140.66	51.40%	304.48	441.53	137.05	9.74%
レタス	18.06	43.78	25.72	24.78%	54.13	405.52	351.39	65.44%
だいこん	14.98	65.90	50.92	44.83%	73.35	185.82	112.47	26.16%
コーン	21.66	18.30	-3.36	-4.13%	6.31	146.46	140.15	119.50%
たまねぎ	27.39	83.17	55.79	32.01%	41.14	47.64	6.51	3.74%
にんじん	.00	.29	0.29	-	.00	21.77	21.77	-
ピーマン(含むパプリカ)	23.80	17.72	-6.08	-7.11%	15.34	7.83	-7.50	-15.46%
かぼちゃ	.02	3.14	3.11	247.93%	.00	5.23	5.23	-
トマト	.00	.68	0.68	-	2.60	3.81	1.21	10.07%
はくさい	3.15	.31	-2.84	-43.88%	.11	2.15	2.04	110.44%
にら	.00	8.39	8.39	-	8.25	2.10	-6.15	-28.99%
みず菜	22.41	13.86	-8.55	-11.32%	11.29	.99	-10.30	-45.61%
ブロッコリー	.37	3.82	3.45	79.42%	.84	.95	0.11	3.10%
ほうれんそう	3.79	.00	-3.79	-	.13	.36	0.23	28.41%
その他の野菜	6.54	.01	-6.53	-	.06	19.68	19.62	-

## ② 惣菜サラダ

惣菜サラダの千人当たり販売金額は、21年686円から30年2,044円と大幅な増加となっている。主な品目は、「ミックス」、次いで「ばれいしょ、ごぼう、コーン、かぼちゃ、たまねぎ、キャベツ、レタス、トマト」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「ミックス、ばれいしょ、レタス、ごぼう」が大幅に増加し、「コーン、かぼちゃ、たまねぎ」等、後期では小幅ながら「ばれいしょ、キャベツ、かぼちゃ、トマト」等となっている。

一方、減少している品目は、後期において「レタス、ミックス」が大幅な減少となっている。

品目別の販売価格の年次別比較は、各年次の販売製品構成が異なるなどにより難しいが、「レタス」と「ミックス」の28年～30年の年次別平均販売価格を見ると、両品目の原料野菜の主体である「レタス」等の卸売価格高騰を背景に上昇している（レタス：28年169→29年193→30年208円/個、ミックス：同130→150→167円/個）。

一方、味付けや調理がされていないサラダの平均販売価格を見ると、レタスは同153→131→126円/個、ミックスは同150→151→147円/個)、また、カットにおけるレタスの平均販売価格は同95→93→92円/個と、原料野菜価格上昇の製品販売価格への転嫁がみられない。

惣菜サラダにおけるレタス及びミックスの需要は、消費者の価格訴求性の強さ等から、味付けや調理がされていないレタスとミックスのサラダ及びカットレタスにシフトしたと推察される。

表4 惣菜サラダの品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	686.40	2082.77	1396.37	31.98%	2068.08	2043.97	-24.12	-0.29%
ミックス	311.26	871.93	560.67	29.37%	903.38	745.30	-158.09	-4.70%
ばれいしょ	53.76	341.59	287.82	58.76%	334.78	384.47	49.69	3.52%
ごぼう	108.39	203.12	94.73	17.00%	198.16	216.12	17.95	2.19%
コーン	29.42	95.92	66.49	34.37%	91.75	113.70	21.96	5.51%
かぼちゃ	7.94	67.46	59.52	70.74%	67.71	102.19	34.48	10.84%
たまねぎ	16.27	67.60	51.33	42.77%	70.98	88.36	17.38	5.63%
キャベツ	54.71	78.02	23.31	9.28%	32.14	84.52	52.38	27.34%
レタス	40.10	192.85	152.75	48.09%	236.90	84.52	-152.38	-22.71%
トマト	10.20	20.09	9.89	18.46%	22.43	54.96	32.52	25.11%
おくら	10.44	40.36	29.92	40.23%	13.57	42.16	28.59	32.76%
れんこん	.47	19.47	19.00	153.21%	20.31	25.08	4.77	5.42%
だいこん	23.98	30.62	6.64	6.30%	21.52	17.73	-3.79	-4.73%
はくさい	2.01	3.68	1.67	16.27%	5.40	15.12	9.72	29.36%
セルリー	.00	.00	0.00	-	.03	14.02	13.99	359.71%
かんしょ	1.67	22.02	20.35	90.56%	17.09	11.29	-5.80	-9.84%
その他の野菜	15.77	28.06	12.29		31.92	44.42	12.50	

## ③ カット

カットの千人当たり販売金額は、21年500円から30年1,312円と大幅な増加となっている。主な品目は、「キャベツ」、次いで「ねぎ、レタス、ごぼう、だいこん、はくさい、たけのこ」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「キャベツ、レタス、ねぎ」等、後期では、「ねぎ、キャベツ、レタス、だいこん」等となっている。「キャベツ、ねぎ、レタス」は前期及び後期を通じて増加傾向にあり、「だいこん、はくさい」は小幅ながら後期は増加傾向となっている。

「ねぎ」においては、「きざみ」が大幅に増加しており、使い切り等の利便性により購入(需要)が増加していると推察される。また、「だいこん」はサラダ用、「はくさい」は野菜炒め用として購入が増加していると推察される。

一方、減少している品目は「ごぼう」で、前期、後期とも減少傾向となっている。後述するように、野菜惣菜による購入が増加しており、「ごぼう」の消費形態は、調理用のカットや冷凍から惣菜にシフトしている。



表5 カットの品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	500.00	1062.17	562.18	20.73%	1057.46	1311.52	254.07	5.53%
キャベツ	259.24	632.87	373.63	25.00%	643.61	735.69	92.08	3.40%
ねぎ	44.18	127.14	82.96	30.25%	121.68	270.65	148.97	22.12%
レタス	51.46	154.03	102.57	31.53%	137.24	162.16	24.92	4.26%
ごぼう	136.49	102.14	-34.35	-6.99%	100.92	68.34	-32.58	-9.29%
だいこん	2.55	2.37	-0.18	-1.83%	.00	24.51	24.51	-
はくさい	.03	1.58	1.56	181.19%	6.94	15.84	8.90	22.92%
たけのこ	.38	.66	0.28	14.90%	2.46	12.81	10.36	51.10%
たまねぎ	.00	7.98	7.98	-	27.01	6.23	-20.78	-30.70%
やまいも	3.91	27.06	23.16	62.25%	11.06	5.90	-5.17	-14.55%
カリフラワー			0.00	-		4.20	4.20	-
れんこん	1.53	.89	-0.64	-12.55%	.66	1.78	1.12	28.10%
ブロッコリー	.04	.00	-0.04	-	.00	1.68	1.68	-
ピーマン(含むパプリカ)	.02	.73	0.71	139.29%	1.48	1.14	-0.34	-6.37%
その他の野菜	.17	4.71	4.54		4.40	.59	-3.82	

## ④ キット

キットの千人当たり販売金額は、サラダ、カット、惣菜サラダに比べ少ないものの、21年201円から30年696円と大幅な増加となっている。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「ミックス(鍋物用キットなどの調理用キット)」及び「にら、はくさい」等の野菜炒め、後期においては「ミックス」、「もやし、にら、キャベツ、はくさい」等の野菜炒め、「さといも(煮物用キット)」となっている。

減少している品目を見ると、前期では「ごぼう(金平用キット)」等が若干の減少となったが後期には増加に転じている。キットにおいては前期及び後期を通じて増加した品目が多く、家計におけるカット野菜の購入は、調理がより簡便なキットが大きく増加傾向にある。

表6 キットの品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	200.75	377.52	176.77	17.10%	332.79	695.60	362.81	20.24%
ミックス	80.93	144.98	64.05	15.69%	151.59	291.52	139.93	17.76%
鍋キット	60.45	112.7	52.25	16.85%	110.52	121.63	11.11	2.42%
野菜炒めキット	6.36	10.14	3.78	12.38%	10.05	65.11	55.06	59.53%
その他キット	14.12	22.14	8.02	11.90%	31.03	104.79	73.76	35.56%
もやし	19.58	19.83	0.25	0.31%	29.14	159.45	130.31	52.95%
にら	1.40	73.03	71.64	168.88%	71.79	122.70	50.90	14.34%
キャベツ	93.49	92.68	-0.81	-0.22%	33.07	62.77	29.70	17.38%
はくさい	.01	30.66	30.65	649.81%	27.09	38.26	11.16	9.01%
さといも	.00	.43	0.43	-	1.36	13.82	12.46	78.57%
ごぼう	4.92	3.91	-1.02	-5.62%	5.74	6.47	0.73	3.04%
その他の野菜	.41	12.00	11.58		13.01	.62	-12.39	

## (2) 冷凍野菜

### ① 冷凍

冷凍の千人当たり販売金額は、21年1,880円から30年2,729円と大幅な増加となっている。冷凍の需要は、生鮮野菜の価格上昇を背景に長期保存が可能で調理の利便性の高いことから増加傾向である。

主な品目は、「えだまめ」、次いで「ブロッコリー、ミックス、ほうれんそう、さといも、コーン、いんげん、かぼちゃ、おくら」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「ブロッコリー、ほうれんそう、ミックス、さといも、いんげん」等、後期においては、「ブロッコリー、えだまめ、ほうれんそう、いんげん」などである。

「ブロッコリー、ほうれんそう、さといも、コーン、いんげん、かぼちゃ、おくら、ねぎ、アスパラガス」等は、前期と後期を通じて増加傾向となっている。

一方、減少している品目は「ごぼう」であり、前期は若干の減少、後期はカットと同様に惣菜へのシフトにより大きく減少している。

表7 冷凍の品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	1879.80	2299.79	419.99	5.17%	2071.82	2728.62	656.80	7.13%
えだまめ	848.82	828.95	-19.87	-0.59%	817.53	1024.05	206.52	5.79%
ブロッコリー	47.06	169.16	122.11	37.70%	172.19	408.66	236.46	24.12%
ミックス	280.27	345.93	65.66	5.40%	280.67	270.24	-10.43	-0.94%
ほうれんそう	98.45	198.07	99.62	19.10%	173.50	243.70	70.20	8.87%
さといも	131.64	187.42	55.78	9.23%	165.66	185.76	20.11	2.91%
コーン	161.47	173.51	12.03	1.81%	154.46	167.19	12.74	2.00%
いんげん	92.16	126.77	34.61	8.30%	106.85	147.62	40.78	8.42%
かぼちゃ	79.84	94.49	14.65	4.30%	57.49	78.98	21.49	8.26%
おくら	10.93	23.53	12.59	21.12%	19.01	49.54	30.53	27.06%
ねぎ	7.09	11.90	4.81	13.83%	10.75	29.13	18.38	28.29%
アスパラガス	5.12	8.12	3.01	12.25%	13.33	25.26	11.92	17.31%
そら豆	34.20	31.31	-2.88	-2.18%	21.42	23.78	2.36	2.65%
えんどう	22.44	23.61	1.17	1.28%	22.94	21.99	-0.96	-1.06%
黒豆	14.05	25.08	11.02	15.58%	12.10	11.46	-0.64	-1.34%
やまいも	5.37	10.66	5.29	18.70%	8.00	9.80	1.80	5.20%
ごぼう	18.20	17.75	-0.44	-0.61%	13.77	6.28	-7.48	-17.80%
その他	22.68	23.51	0.83		22.16	25.18	3.02	

### ② 冷凍調理

冷凍調理の千人当たり販売金額は、21年2,668円から30年2,816円と増加している。

主な品目は、「ばれいしょ」、次いで「ほうれんそう、コーン、れんこん、かぼちゃ、かんしょ、ピーマン(含むパプリカ)」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「ほうれんそう、ばれいしょ」などであり、後期においては、「ピーマン(含むパプリカ)」などとなっている。

一方、減少している品目は、前期では「ごぼう」など、後期においては、「ほうれんそう、れんこん、かぼちゃ」などとなっている。

「ほうれんそう」は前期の増加傾向から後期は減少傾向に転じ、「かぼちゃ」は前期と後期を通じて減少傾向となっている。「ごぼう」は、原料価格が高騰した26年に大幅に減少した以降、緩やかな増加傾向となっている。

前期又は後期に購入が減少している品目のうち、「かぼちゃ、かんしょ、ごぼう」は、惣菜での購入が増加しており（表9）、購入形態が冷凍調理から惣菜にシフトし、また、前期において減少傾向であった「コーン」はサラダ、惣菜サラダでの購入が増加している（表3、4）ことから、家計の購入形態は冷凍調理からカット野菜にシフトしていると推察される。

表8 冷凍調理の品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	2668.21	3112.92	444.71	3.93%	3026.01	2816.00	-210.01	-1.78%
ばれいしょ	1368.65	1471.81	103.16	1.83%	1477.41	1453.77	-23.64	-0.40%
ほうれんそう	227.84	529.02	301.18	23.44%	463.19	407.80	-55.40	-3.13%
コーン	233.04	202.52	-30.52	-3.45%	187.00	194.68	7.68	1.01%
れんこん	162.20	175.96	13.76	2.06%	190.47	159.13	-31.35	-4.40%
かぼちゃ	173.77	156.15	-17.63	-2.64%	166.35	138.09	-28.25	-4.55%
かんしょ	152.98	132.17	-20.81	-3.59%	95.23	99.36	4.13	1.07%
ピーマン(含むパプリカ)	.00	.00	0.00	-	.00	56.49	56.49	-
ねぎ	5.89	13.10	7.21	22.12%	17.33	34.70	17.37	18.95%
ごぼう	113.20	60.40	-52.80	-14.53%	23.10	32.55	9.46	8.96%
なす	3.51	42.46	38.95	86.51%	27.95	30.93	2.98	2.56%
さといも	.10	.00	-0.10	-	12.21	27.31	15.10	22.29%
キャベツ	12.98	45.18	32.19	36.58%	40.92	25.29	-15.63	-11.33%
やまいも	.88	.91	0.03	0.84%	6.97	20.36	13.40	30.76%
にがうり			0.00	-		9.77	9.77	-
えだまめ	25.40	40.55	15.15	12.41%	26.96	9.01	-17.95	-23.97%
いんげん	12.23	13.33	1.09	2.16%	11.91	5.07	-6.84	-19.23%
たまねぎ	.24	17.50	17.27	192.72%	12.53	1.21	-11.32	-44.29%
その他	175.30	211.87	36.57		266.47	110.47	-156.00	

### (3) 野菜惣菜

#### ① 和惣菜

冷凍調理の千人当たり販売金額は、21年1,996円から30年3,918円と大幅に増加している。主な品目は、「たけのこ」、次いで「かんしょ、ごぼう、ミックス、だいこん、さといも、れんこん、ふき、かぼちゃ、ばれいしょ、コーン」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「たけのこ、さといも、ミックス、ごぼう、かんしょ、だいこん、れんこん、かぼちゃ」などであり、後期においては、「ミックス、だいこん、ごぼう」などとなっている。

一方、減少している品目は、小幅であるが前期では「えんどう」など、後期においては、「たけのこ、ふき、ぜんまい」などとなっている。

カット、冷凍及び冷凍調理で購入が大幅に減少した「ごぼう」は、惣菜サラダ及び和惣菜での購入が増加しており、消費形態は、調理用のカット及び冷凍から、味付け等の調理された惣菜サラダ、冷凍調理から野菜惣菜にシフトしていると推察される。

表9 和惣菜 品目別千人当たり販売金額

品目	千人当たり販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	1996.14	3512.15	1516.01	15.17%	3588.03	3918.20	330.18	2.23%
たけのこ	567.60	939.33	371.73	13.42%	986.45	828.44	-158.02	-4.27%
かんしょ	283.59	390.74	107.15	8.34%	397.38	403.60	6.21	0.39%
ごぼう	140.13	247.36	107.23	15.27%	274.84	375.74	100.90	8.13%
ミックス	114.25	227.17	112.92	18.75%	234.34	341.77	107.43	9.89%
だいこん	41.11	132.30	91.19	33.93%	140.81	242.18	101.37	14.52%
さといも	90.11	226.36	136.25	25.89%	209.95	228.96	19.01	2.19%
れんこん	72.77	140.38	67.62	17.85%	136.56	155.86	19.29	3.36%
ふき	140.73	166.07	25.33	4.22%	156.12	128.82	-27.30	-4.69%
かぼちゃ	19.32	84.95	65.63	44.81%	94.82	114.43	19.61	4.81%
ばれいしょ	20.53	54.49	33.96	27.64%	78.84	113.57	34.73	9.55%
コーン	88.73	99.02	10.30	2.78%	98.95	108.33	9.38	2.29%
なす	8.28	69.04	60.76	69.94%	88.03	93.18	5.16	1.43%
ぜんまい	73.87	99.29	25.42	7.67%	95.42	76.61	-18.81	-5.34%
ほうれんそう	11.23	82.43	71.19	64.58%	61.57	75.09	13.51	5.08%
おくら	34.90	45.58	10.68	6.90%	39.97	68.51	28.54	14.42%
しょうが	.03	1.07	1.04	153.89%	1.61	66.96	65.35	153.92%
山菜	65.54	68.95	3.42	1.28%	67.97	64.28	-3.69	-1.39%
もやし	33.23	45.21	11.98	8.00%	54.19	57.53	3.35	1.51%
やまいも	9.82	51.67	41.85	51.45%	38.86	46.92	8.06	4.82%
菜の花	13.50	56.93	43.44	43.31%	42.35	32.73	-9.62	-6.24%
高菜	32.43	19.46	-12.97	-11.99%	29.53	32.43	2.90	2.37%
きゅうり	2.70	9.06	6.37	35.40%	11.62	27.13	15.51	23.61%
わらび	24.63	33.82	9.19	8.25%	34.65	26.18	-8.47	-6.77%
キャベツ	.13	5.70	5.57	157.29%	8.06	24.77	16.70	32.39%
アスパラガス	11.54	16.74	5.20	9.75%	10.70	22.32	11.62	20.18%
ねぎ	17.94	21.88	3.95	5.10%	12.32	22.19	9.87	15.85%
えだまめ	21.66	25.10	3.45	3.76%	30.04	21.82	-8.22	-7.68%
小松菜	.13	26.85	26.72	279.52%	28.77	17.77	-11.00	-11.35%
えんどう(グリーンピース)	32.65	13.03	-19.62	-20.52%	18.07	16.78	-1.29	-1.84%
にがうり	3.40	29.80	26.39	72.04%	24.46	12.15	-12.32	-16.06%
その他の野菜	19.68	82.38	62.71		80.76	71.20	-9.56	

## ② 豆類 (煮豆+惣菜豆)

豆類における千人当たりの販売金額は、平成21年2,372円から30年2,707円と増加傾向であるものの、後期は緩やかな増加傾向となっている。

主な品目は、「大豆(黒豆を含む)、金時豆、いんげん(いんげん豆を含む)、サラダ豆(複

数の豆のミックス)」などである。千人当たり販売金額が増加している品目は、「大豆、サラダ豆」が前期と後期を通じて増加し、「そら豆」は前期の減少傾向から後期は増加傾向に転じている。

一方、減少している品目は、「いんげん（いんげん豆を含む）」が前期と後期を通じて減少傾向で推移し、「えんどう（含むグリーンピース）、金時豆」が後期に減少傾向に転じている。

「いんげん（いんげん豆を含む）」は、冷凍調理も後期に減少傾向（表 8）に転じているが、冷凍は増加傾向で推移（表 7）しており、消費形態は、調理された形態から調理用にシフトしていると推察される。

複数の豆がミックスされた「サラダ豆」は、前期と後期を通じて増加傾向で推移し、「その他の豆」においては、昆布豆やひじき豆が減少傾向で推移するなか、野菜豆（野菜と大豆等の豆）などが増加傾向で推移している。

表 10 豆類（煮豆＋惣菜豆） 品目別千人当たり販売金額

品 目	千人当り販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	2371.73	2659.99	288.25	2.91%	2668.45	2707.44	38.98	0.36%
大豆	929.91	1146.56	216.65	5.38%	1131.26	1188.03	56.77	1.23%
金時豆	446.80	458.25	11.45	0.63%	477.41	460.34	-17.07	-0.91%
いんげん	356.11	305.85	-50.26	-3.73%	265.36	183.14	-82.22	-8.85%
サラダ豆	4.12	47.50	43.38	84.24%	62.97	162.15	99.19	26.68%
そら豆	80.84	72.12	-8.72	-2.81%	61.67	66.05	4.38	1.73%
えんどう	53.29	61.76	8.47	3.76%	55.99	39.53	-16.46	-8.33%
ひよこ豆	.06	.20	0.15	37.02%	.00	.15	0.15	-
その他の豆	500.66	567.94	67.28		613.80	608.19	-5.61	

### ③ 洋惣菜

洋惣菜における千人当たりの販売金額は、平成 21 年 133 円から 30 年 219 円と、和惣菜や豆類に比べ少ないものの増加傾向で推移している。

主な品目は、「ばれいしょ、キャベツ、トマト」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、後期において「キャベツ、ばれいしょ」などとなっている。

一方、減少している品目は、前期に増加傾向であった「ほうれんそう、コーン」が後期において減少傾向に転じている。

前期で減少傾向であった「ばれいしょ、キャベツ」等は、後期においては増加傾向に転じており、「ばれいしょ」はコロケが安定して推移する中、ポテトグラタンなどが増加し、「キャベツ」はロールキャベツなどが増加している。洋惣菜においては新商品の開発が進み、購入が増加していると推察される。

表 11 洋惣菜 品目別千人当たり販売金額

品 目	千人当り販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	133.46	133.68	0.22	0.04%	151.43	218.70	67.27	9.62%
ばれいしょ	86.17	72.42	-13.76	-4.26%	93.75	125.11	31.36	7.48%
キャベツ	11.17	7.51	-3.66	-9.46%	6.47	41.87	35.40	59.52%
トマト	6.36	4.03	-2.33	-10.78%	7.25	19.20	11.94	27.56%
ピーマン(含むパプリカ)	.00	2.74	2.74	-	1.56	4.33	2.77	29.10%
たまねぎ	.00	.00	0.00	-	.78	2.51	1.73	34.06%
かぼちゃ	4.37	2.54	-1.83	-12.65%	1.79	2.30	0.50	6.36%
コーン	3.50	9.81	6.31	29.36%	4.11	1.94	-2.17	-17.11%
ほうれんそう	.57	4.52	3.95	67.59%	8.91	.66	-8.25	-47.77%
その他の野菜	21.31	30.11	8.80		26.82	20.78	-6.03	

## ④ 中華惣菜

中華菜における千人当たりの販売金額は、平成 21 年 324 円、平成 30 年 369 円と増加している。主な品目は、「にら、キャベツ、ばれいしょ、なす、はくさい」などである。

千人当たり販売金額が増加している品目は、前期では「キャベツ、はくさい、にら」など、後期では「ばれいしょ、にら」などである。

減少した品目では、後期において「もやし、はくさい、なす」などである。

最も販売が多い「にら」は蕪饅頭など、「キャベツ」は回鍋肉など、「ばれいしょ」は餃子仕立てのチーズポテトなど、「なす」は麻婆茄子などの購入が多い。他方、「はくさい」は中華煮、「もやし」は麻婆もやしの購入が減少している。

表 12 中華惣菜 品目別千人当たり販売金額

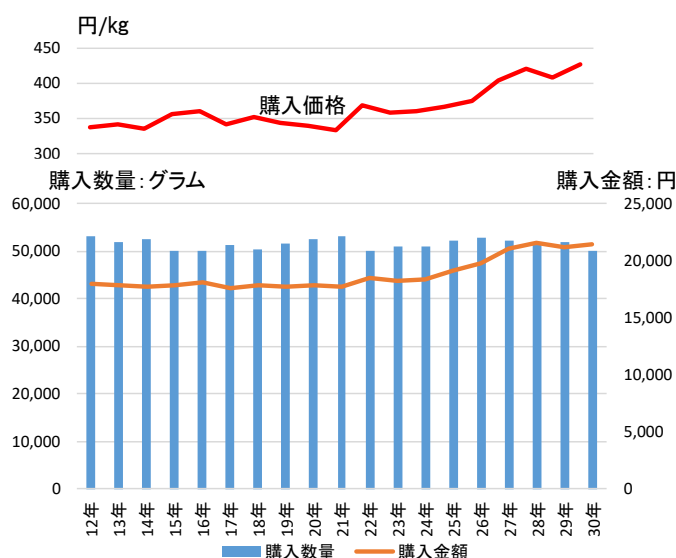
品 目	千人当り販売金額(円)							
	21年	25年	25年-21年 (増減額)	前期平均 増減率(%)	26年	30年	30年-26年 (増減額)	後期平均 増減率(%)
計	323.64	405.03	81.40	5.77%	398.21	368.93	-29.27	-1.89%
にら	107.92	115.78	7.86	1.77%	128.46	135.65	7.19	1.37%
キャベツ	45.67	98.16	52.50	21.08%	101.99	84.90	-17.08	-4.48%
ばれいしょ	42.32	44.03	1.71	1.00%	48.42	60.00	11.57	5.50%
なす	57.37	57.08	-0.29	-0.13%	57.42	44.57	-12.86	-6.14%
はくさい	20.15	33.77	13.62	13.78%	28.93	16.60	-12.32	-12.96%
もやし	38.30	29.24	-9.07	-6.53%	24.36	12.92	-11.44	-14.67%
きゅうり	.52	.00	-0.52	-	1.51	4.33	2.82	30.19%
だいこん	.03	.00	-0.03	-	.00	3.12	3.12	-
その他の野菜	11.36	26.97	15.61		7.12	6.86	-0.27	

## 5. 家計調査における購入動向

### (1) 生鮮野菜

総務省家計調査により、家計における生鮮野菜（もやし、きのこを除く）の購入数量・金額の動向を見ると、22年は天候不順による生鮮野菜の購入価格の上昇により購入数量は減少し、購入金額は増加となったが、24年から26年においては、購入価格が緩やかに上昇するなか、購入数量及び購入金額も緩やかに増加している。27年～29年の購入数量は、天候不順により購入価格が高騰（図5）するなか52kg前後で推移し、30年は購入価格のさらなる高騰により約50kgに減少している。

図12 家計調査における購入数量、購入金額、購入価格の動向



資料：総務省 家計調査年報（二人以上の世帯）

注：もやし、きのこを除く生鮮野菜（一人当たり数量・金額）

なお、家計調査における生鮮野菜の購入数量・金額には、ホール野菜とともに単品のカット野菜（カット）及び単品の冷凍野菜（冷凍）が含まれているため、各年次の変化には、カット及び冷凍の購入の増減が影響していると推察される。

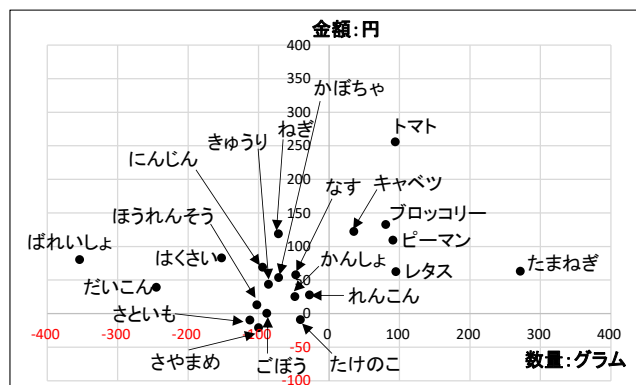
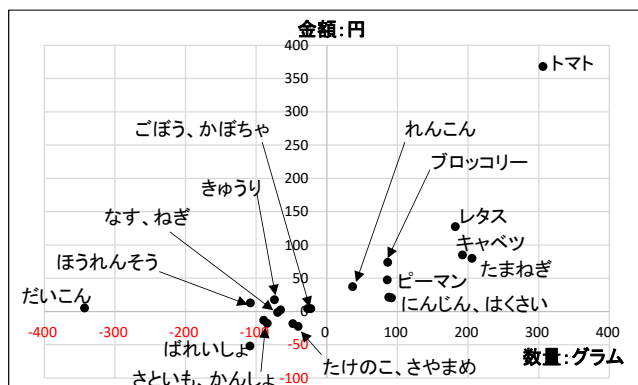
カット及び冷凍の千人当たり販売金額は、カットが21年500円から30年1,312円の162%増、冷凍が同1,880円から2,729円の45%増と増加するなか、家計調査における購入数量は、24年から26年では生鮮野菜の購入価格（家計調査）が上昇傾向であるものの増加傾向で、27年以降では生鮮野菜の購入価格が高騰するなか安定して推移している。購入価格が上昇する中、購入数量が増加傾向又は安定して推移している一因は、販売価格が安定（図3）しているカットと冷凍の購入増加と推察される。

品目別に家計調査及びカット・冷凍の購入動向を比較するため、家計調査における購入数量・金額の動向を、20～22年及び24～26年の平均の増減額を前期、24～26年及び28年～30年の平均の増減額を後期として比較すると、以下のように分類される。

図 13 家計調査における生鮮野菜の購入量、購入金額の増減額

(24～26年平均マイナス20～22年平均)

(28年～30年平均マイナス24～26年平均)



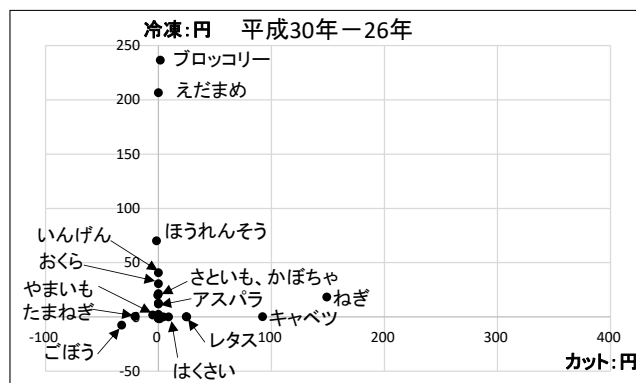
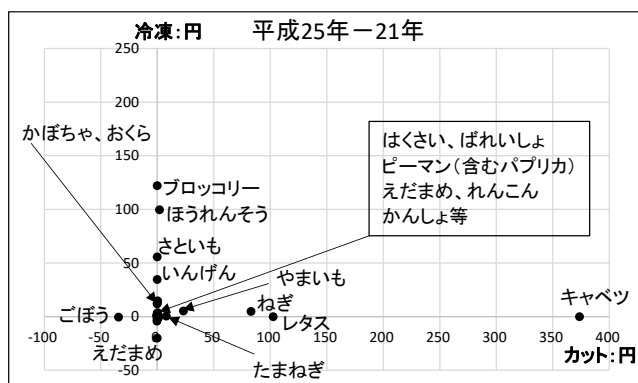
資料：総務省 家計調査年報（二人以上の世帯）

注：20～22年と28～30年の三カ年平均の増減額（一人当たり数量・金額）

図 14 カット、冷凍にける千人当たり販売金額の増減額

(25年マイナス21年)

(30年マイナス26年)



なお、購入金額は、後期においては天候不順等により購入価格が上昇していることから、基本的には前期に比べて増加している。また、加工処理されるカットと冷凍の購入は、可食部のみの購入となることから、カット及び冷凍の購入増加は、ホール野菜の購入と比べて、購入数量は抑制され、一方、購入金額は多くなる。

ア 前期及び後期において数量及び金額が増加している品目

トマト、たまねぎ、ピーマン（含むパプリカ）、レタス、キャベツ、ブロッコリー

イ 前期及び後期において数量及び金額が減少している品目

さといも、たけのこ、さやまめ

ウ 前期に数量及び金額が増加し、後期に数量が減少し金額は増加している品目

にんじん、はくさい、れんこん



エ 前期に数量及び金額が減少し、後期に数量が減少し金額は増加している品目  
ばれいしょ、かんしょ

オ 前期及び後期において数量が減少し、金額が増加している品目  
ねぎ、ほうれんそう、だいこん、きゅうり、なす、ごぼう、かぼちゃ

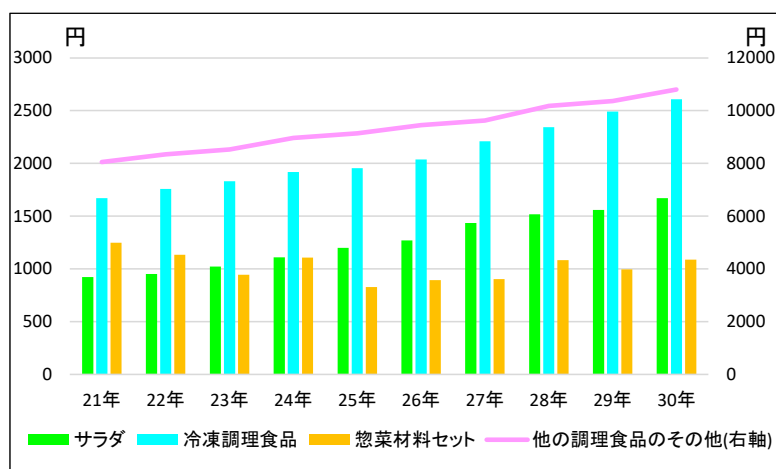
カ 前期及び後期において数量が減少し、金額は変わらない品目  
ごぼう

## (2) サラダ、冷凍調理、惣菜

他方、家計における野菜消費は、カットや冷凍での購入が増加しているだけでなく、サラダや調理された形態での購入も増加している。

家計調査の「サラダ」「冷凍調理食品」「惣菜材料セット（宅配を含む）」「他の調理食品のその他（惣菜、缶詰・瓶詰等）」の一人当たり購入金額（二人以上の世帯）を見ると、「サラダ、冷凍調理食品、他の調理食品のその他」は増加傾向にあり、「惣菜材料セット」は減少傾向から26年には増加傾向に転じ、29年に減少したものの30年は再び増加に転じている。

図 15 「サラダ、冷凍調理食品、惣菜材料セット、他の調理食品のその他」の一人当たり購入金額の推移



資料：総務省、家計調査年報（二人以上の世帯）

一方、家計におけるサラダ及び調理された野菜の購入動向を、POS データにおけるサラダ野菜（サラダ＋惣菜サラダ）と調理野菜（冷凍調理＋野菜惣菜）の千人当たりの販売金額における前期と後期の平均増減率で見ると、サラダ野菜では前期 28%増から後期 6%増、調理野菜では前期 7%増から後期 0.5%増と、前期は増加傾向で推移したが、後期になるとサラダ野菜は惣菜サラダの減少により前期に比べ緩やかな増加に転じ、調理野菜は冷凍調理の減少によりほぼ横ばいで推移している。味付け等の調理がされていないサラダ、野菜惣菜（含む豆類）の購入は、後期の増加率が前期に比べ低いものの、前期と後期を通じて増加傾向で推移しており、サラダや惣菜の購入は増加傾向にある。

表 13 サラダ野菜（サラダ+惣菜サラダ）、調理野菜（冷凍+惣菜）の千人当たり販売金額

	千人当り販売金額(円)					
	21年	25年	前期平均 増減率(%)	26年	30年	後期平均 増減率(%)
サラダ	794.67	1928.29	24.81%	2094.18	3184.92	11.05%
惣菜サラダ	686.40	2082.77	31.98%	2068.08	2043.97	-0.29%
サラダ野菜	1481.07	4011.07	28.28%	4162.26	5228.88	5.87%
冷凍調理	2668.21	3112.92	3.93%	3026.01	2816.00	-1.78%
野菜惣菜(含む豆類)	4825.02	6711.43	8.60%	6806.64	7215.45	1.47%
調理野菜	7493.23	9824.35	7.01%	9832.64	10031.45	0.50%

### (3) 品目別購入動向

品目別に家計調査における購入動向を、上記(1)の分類別に見ると、

ア 前期及び後期において数量及び金額が増加している品目

(トマト、たまねぎ、ピーマン(含むパプリカ)、レタス、キャベツ、ブロッコリー)

家計調査における「キャベツ、レタス、ブロッコリー」の購入増加は、「キャベツ、レタス」ではカット野菜(カット)の購入が、「ブロッコリー」では冷凍野菜(冷凍)の購入が増加しており、当該三品目の購入増加の一因は、カット及び冷凍の購入増加と推察される。

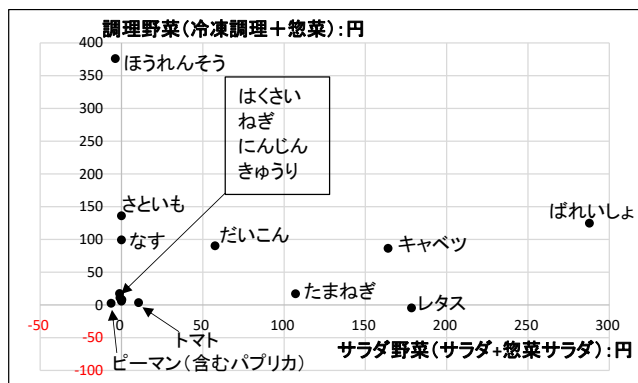
「たまねぎ、トマト、ピーマン(含むパプリカ)」の購入増加は、「たまねぎ」においてはサラダ用の「サラダたまねぎ」などの調理用、「トマト」においては中玉トマト、ミニトマト、高リコピントマトやフルーツトマト、ピーマン(含むパプリカ)においてはカラーピーマンやパプリカの購入の増加により、ホールでの購入も増加したと推察される。

また、サラダ野菜(サラダ+惣菜サラダ)と調理野菜(冷凍調理+野菜惣菜)の購入動向を見ると、「レタス、たまねぎ、トマト」はサラダ野菜での購入が増加し、「キャベツ」は前期においてサラダ野菜及び調理野菜、後期はサラダ野菜での購入が増加し、「ピーマン(含むパプリカ)」は後期において調理野菜の購入が増加している。

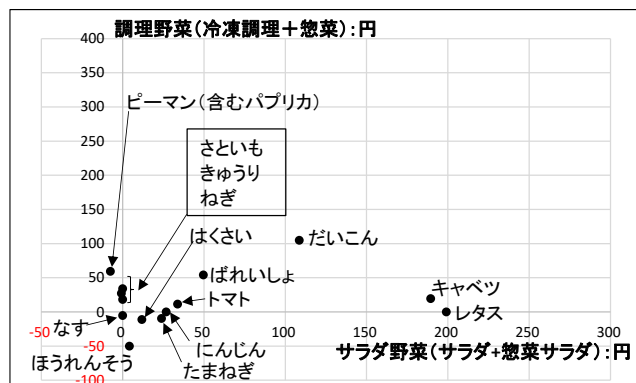
「たまねぎ、トマト、キャベツ、レタス、ピーマン(含むパプリカ)」の消費形態は、ホールに加えサラダや調理された形態での消費が増加していると推察される。

図 16 サラダ、調理野菜における千人当たり販売金額の増減額  
(指定野菜)

(25年マイナス21年)



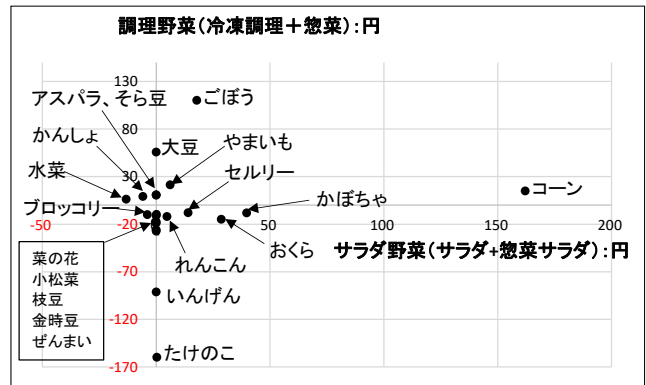
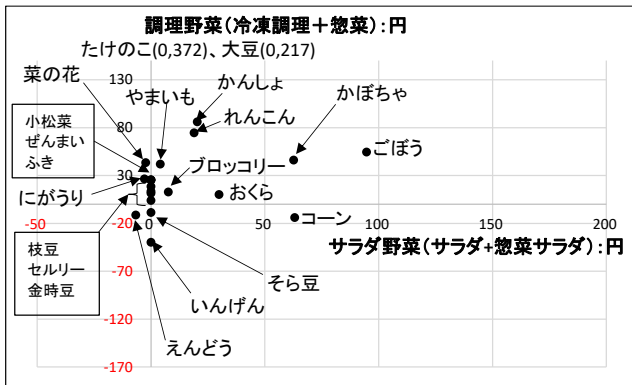
(30年マイナス26年)



(他の野菜)

(25年マイナス21年)

(30年マイナス26年)



イ 前期及び後期において数量及び金額が減少している品目

(さといも、たけのこ、さやまめ)

家計調査における「さといも、たけのこ、さやまめ」の購入減少は、「さといも」では冷凍野菜（冷凍）の購入が増加しているものの冷凍調理や和惣菜の購入が、「たけのこ」では和惣菜の購入が、「さやまめ」では「えだまめ」が冷凍野菜（冷凍）の購入が増加しているものの豆類（煮豆+惣菜豆）の購入が増加傾向であることから、家計におけるホールでの購入は減少傾向と推察される。

ウ 前期に数量及び金額が増加し、後期に数量が減少し金額は増加している品目

(にんじん、はくさい、れんこん)

家計調査における「にんじん、はくさい、れんこん」の購入は、「にんじん」は前期では高齢化・健康志向等によりホールの需要も堅調に推移したと推察されるが、カット野菜のサラダ及び惣菜サラダのミックス等で多く使用されていることから、消費形態はホールからカット野菜にシフトしていると推察される。

「はくさい」は、前期では鍋物需要により増加したが、後期ではカット野菜のキットや和惣菜の購入が増加していることから、ホールの購入は減少したと推察される。

「れんこん」は、前期ではアレルギーに対する機能性が評価されホールの購入が増加したと推察されるが、後期では和惣菜の購入が増加していることから、ホールの購入は減少したと推察される。

エ 前期に数量及び金額が減少し、後期に数量が減少し金額は増加している品目

(ばれいしょ、かんしょ)

家計調査における「ばれいしょ、かんしょ」の購入は、前期と後期を通じて惣菜サラダや和・洋惣菜の購入が増加していることからホールの購入は減少傾向にあると推察されるが、後期では天候不順による購入価格の上昇に加え、新ばれいしょや金時芋・安納芋等の比較的価格の高いものの購入増加により購入金額は増加したと推察される。

オ 前期及び後期において数量が減少し、金額が増加している品目

(ねぎ、ほうれんそう、だいこん、きゅうり、なす、かぼちゃ)

家計調査における「ねぎ、ほうれんそう、だいこん、きゅうり、なす、かぼちゃ」の購入は、「ねぎ」はカット野菜のカット及び冷凍野菜の冷凍の購入が、「ほうれんそう」は冷凍野菜の冷凍の購入が増加している。ホールに比べ単価が高く、可食部のみ購入となるカットや冷凍の購入増加により、ホールの購入数量は減少し購入金額は増加したと推察される。

「だいこん」は、和惣菜の購入増加によりホールの購入数量は減少し、天候不順による購入価格の上昇に加え、1/2カットなどの購入の増加等により購入金額は増加したと推察される。

「きゅうり、なす」は、和惣菜等の購入増加によりホールの購入数量は減少し、作付面積の減少及び天候不順による購入価格の上昇傾向により購入金額は増加したと推察される。

「かぼちゃ」は、前期では和惣菜の購入が増加傾向であったものの冷凍野菜の冷凍の購入が増加傾向であったことから購入数量微減・金額微増であったと推察され、後期では和惣菜の購入が引続き増加したことから、ホールの購入数量が減少したと推察される。「かぼちゃ」の消費形態は、冷凍での購入が堅調であるものの、惣菜での購入の増加により家庭での購入形態は、調理原料(ホール、冷凍)から調理済食品である和惣菜にシフトしたと推察される。

カ 前期及び後期において数量が減少し、金額は変わらない品目(ごぼう)

「ごぼう」は、カット野菜のカット及び冷凍野菜の冷凍の購入が減少する一方、和惣菜の購入が増加傾向にあることから、「ごぼう」の消費形態は、家庭における調理原料(ホール、カット、冷凍)から和惣菜にシフトしたと推察される。

生鮮野菜の購入(消費)形態は、天候不順等により生鮮野菜の購入価格が上昇する中、和惣菜などの調理食品の購入増加によりホールでの購入が減少する一方、調理が簡便で購入価格が安定しているカット及び冷凍の購入増加により、家計調査における野菜の購入は増加傾向で推移していると推察される。

## 6. 今後の野菜消費の動向

### (1) 年齢階層別野菜消費の動向

#### ① 生鮮野菜(もやし、きのこ類を除く)

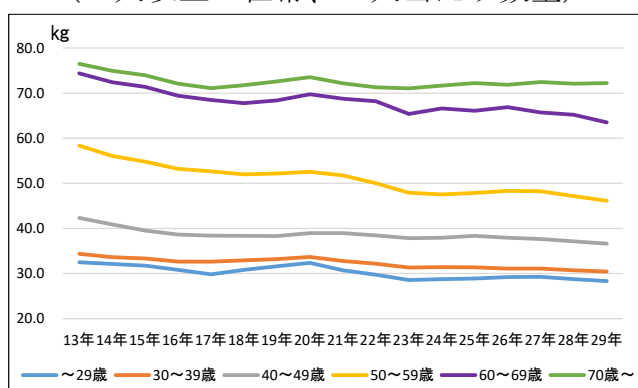
野菜の年齢階層別消費動向を、家計調査における生鮮野菜の世帯主年齢階層別購入数量・金額(一人当たり)で見ると、二人以上の世帯では、購入数量は高い年齢階層ほど多く、70歳以上の階層が最も多い。経年変化を見ると、全ての階層で減少傾向であったが、24年～27年では70歳以上、50歳代、29歳以下の階層が緩やかな増加に転じ、他の階層はほぼ横ばいで推移しており、高値となった28年(27～29年平均)及び29年(28～30年平均)では、70歳以上の階層はほぼ横ばい、他の階層は減少に転じている。

他方、購入金額は、購入数量と同様に高い年齢階層ほど多く、経年変化では、全ての階層で緩やかな減少傾向から増加傾向に転じている。28年（27～29年平均）及び29年（28～30年平均）は、高値による購入数量の減少から緩やかな増加または横ばいとなっている。

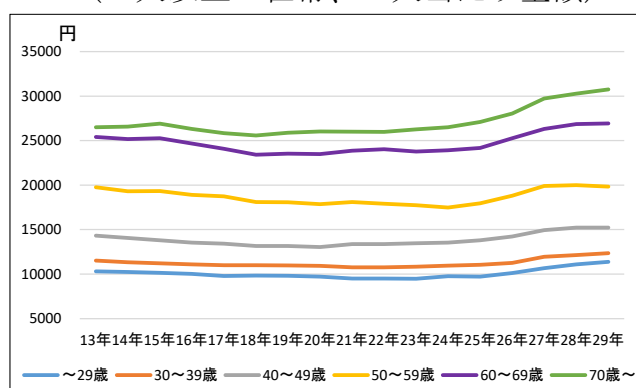
一方、単身世帯では、二人以上の世帯と同様に高い年齢階層ほど多い。経年変化では、34歳以下の階層が緩やかな増加傾向から28年（27～29年平均）に若干の減少となり29年（28～30年平均）に再び増加に転じている。35～59歳の階層は、緩やかな減少傾向から増加傾向に転じ、29年（28～30年平均）に再び減少に転じている。60歳以上の階層は、ほぼ横ばいから増加傾向に転じている。

図17 生鮮野菜の年齢階層別消費動向

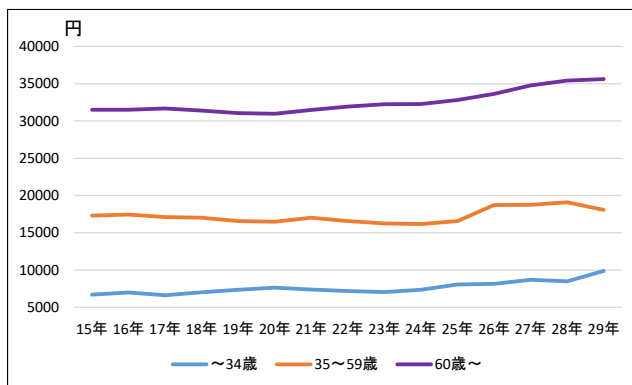
(二人以上の世帯、一人当たり数量)



(二人以上の世帯、一人当たり金額)



(単身世帯：金額)



資料：総務省、家計調査年報

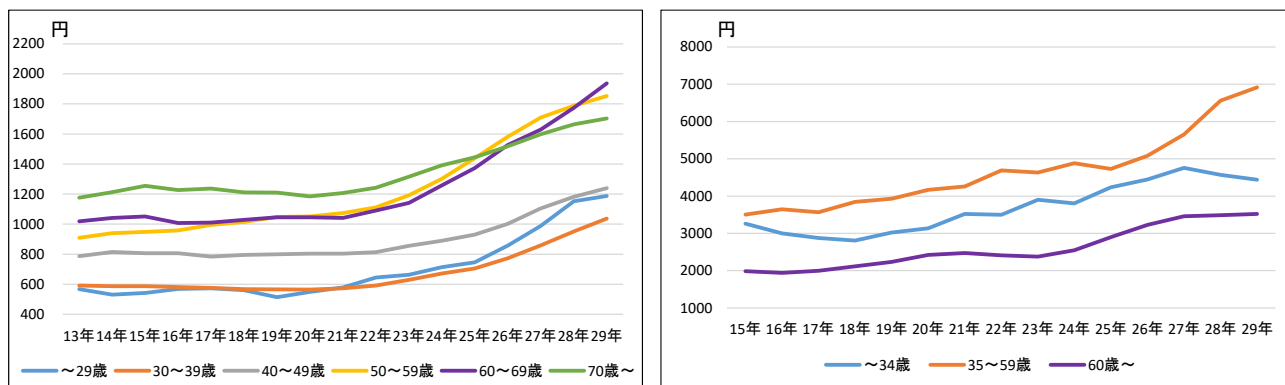
注：14年～30年の三カ年移動平均

② サラダ

サラダの購入金額は、二人以上の世帯（一人当たり）では、50歳以上の階層の購入が多く、経年変化では、全年齢階層が増加傾向で推移するなか、50歳代及び60歳代が近年大幅に増加しており、最も購入が多かった70歳代を上回った。

単身世帯では、35～59歳の階層の購入が最も多く、近年では大幅な増加傾向となっている。34歳以下及び60歳以上の階層も増加傾向であったが、28年（27～29年平均）に60歳以上の階層が緩やかな増加傾向に、34歳以下の階層が減少に転じている。

図 18 サラダの世帯主年齢階層別消費動向  
二人以上の世帯（一人当たり） 単身世帯



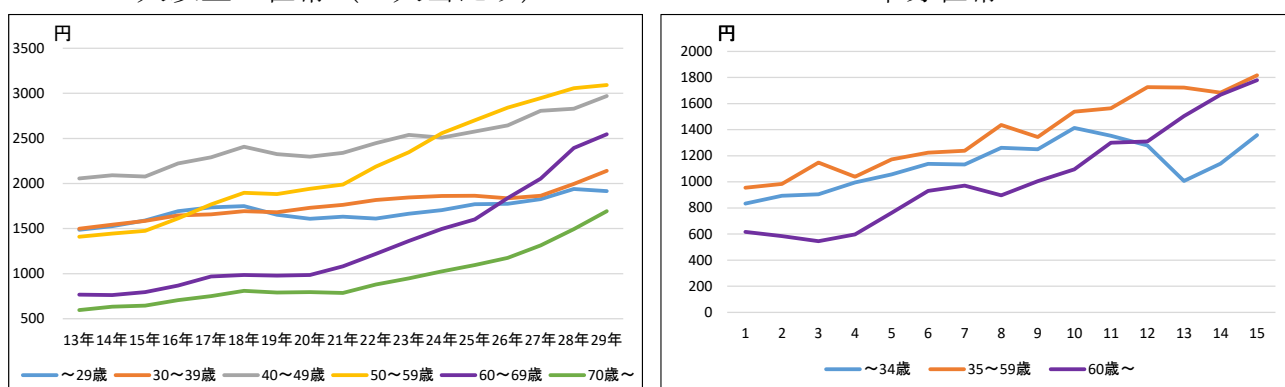
資料：総務省、家計調査年報  
注：14年～30年の三ヵ年移動平均

### ③ 冷凍調理食品

冷凍調理食品の購入金額は、二人以上の世帯（一人当たり）では、40歳代及び50歳代の購入が多く、経年変化では、全年齢階層が増加傾向で推移するなか、50歳代が、弁当需要が多いと推察される40歳代を上回り最も購入が多い階層となった。また、近年においては、60歳代、70歳以上の階層が大幅に増加している。

単身世帯では、35～59歳の階層の購入が最も多いが、経年変化では、60歳以上の階層が大幅に増加し、35～59歳の階層と同程度の購入金額となっている。一方、34歳以下の階層は増加傾向から25年に減少傾向に転じているが、28年（27年～29年平均）及び29年（28～30年平均）は生鮮野菜の購入価格の高騰などにより増加に転じている。

図 19 冷凍調理食品の世帯主年齢階層別消費動向  
二人以上の世帯（一人当たり） 単身世帯



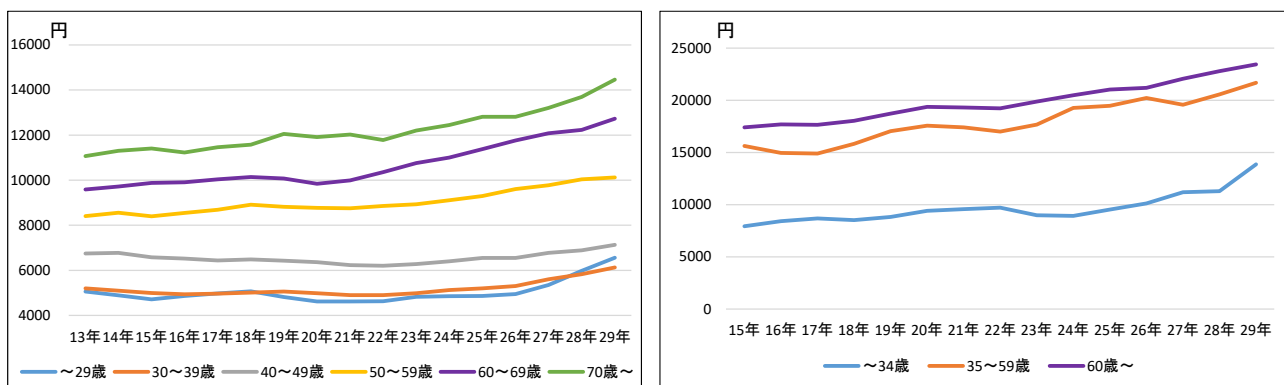
資料：総務省、家計調査年報  
注：14年～30年の三ヵ年移動平均

#### ④ 他の調理食品のその他（惣菜等）

他の調理食品のその他（惣菜等）の購入金額は、二人以上の世帯（一人当たり）及び単身世帯で高い年齢階層ほど多く、経年変化では全ての階層で増加傾向となっている。

野菜の購入（消費）は高い年齢階層の購入が多く、また近年においては、高い年齢階層においてサラダや冷凍調理食品の購入が顕著に増加している。

図 20 他の調理食品のその他の世帯主年齢階層別消費動向  
二人以上の世帯 単身世帯



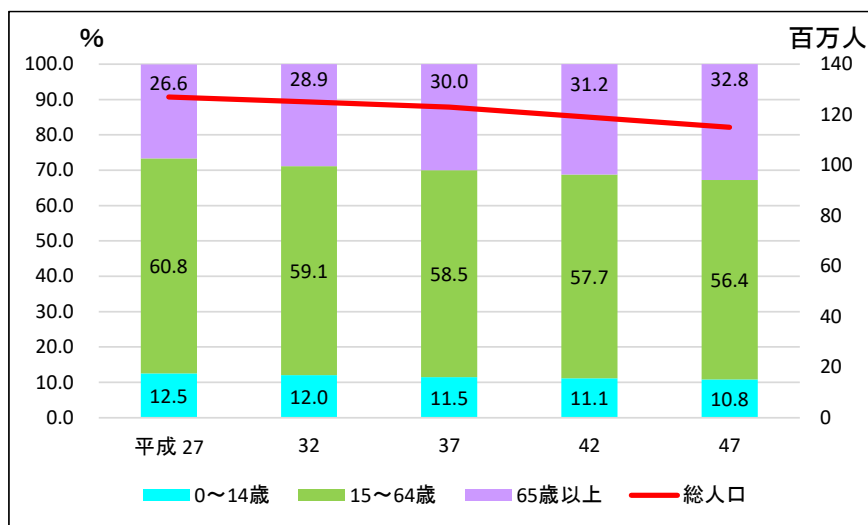
資料：総務省、家計調査年報

注：14年～30年の三ヵ年移動平均

#### (2) 今後の野菜消費

日本の人口は、27年国勢調査において初めて減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（平成29年推計 [出生中位(死亡中位)]）によれば、今後も減少傾向で推移すると予測され、また、65歳以上の人口割合は、27年の26.6%から37年30.0%、47年32.8%に上昇し、高齢化が進展すると予測されている。

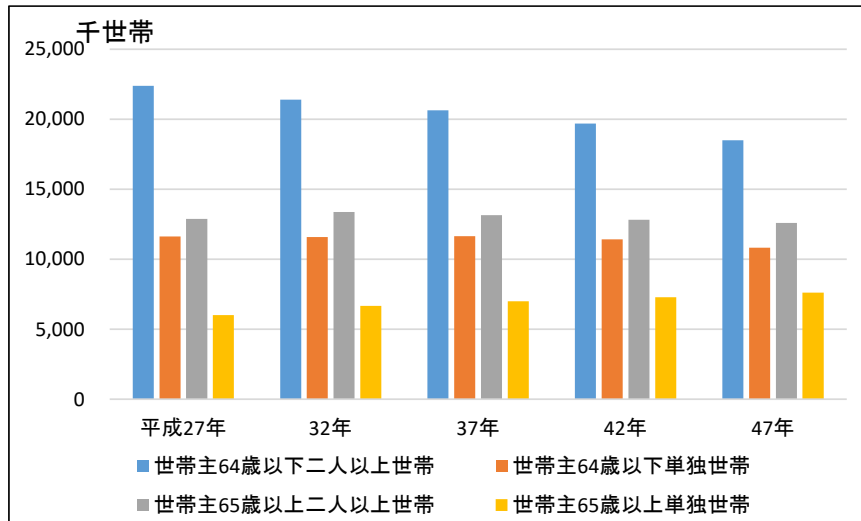
図 21 将来推計人口と年齢別構成の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（平成29年推計 [出生中位(死亡中位)]）

また、同研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』(平成30年推計)によれば、世帯主が65歳以上の世帯が増加し、そのなかでも単独世帯の増加により高齢の単独世帯が増加すると予測されている。

図22 日本の世帯数の将来推計(全国推計)



資料：国立社会保障・人口問題研究所 日本の世帯数の将来推計(平成30年全国推計)

注1) 二人以上世帯：核家族、核家族以外の親族または非親族の世帯、施設等の世帯

注2) 単独世帯：世帯主のみの世帯(世帯人員が一人の世帯)

会社などの独身寮や間借り・下宿屋などの単身者も含まれるが、寮・寄宿舎の学生・生徒や自衛隊の営舎内居住者などは施設等の世帯としており単独世帯には含まれていない。

家計調査における生鮮野菜(もやし、きのこ類を除く)の購入(消費)は、二人以上の世帯及び単身世帯の両方において年齢階層が高いほど購入数量・金額が多く、近年は、二人以上の世帯では70歳以上の高齢者階層の購入数量・金額、単身世帯では60歳以上の購入金額が増加傾向で推移している。また、サラダ、他の調理食品その他(惣菜)、冷凍調理食品においても、二人以上の世帯及び単身世帯において高齢階層の購入金額は増加傾向で推移している。

野菜の消費は、高齢世帯や単独世帯の増加、女性の社会進出による共働き世帯の増加、個食化の進展などを背景に、調理が簡便なカット野菜、調理が簡便で保存が可能な冷凍野菜、調理の手間がない惣菜の購入(消費)が増加傾向で推移している。一方、今後も高齢世帯や高齢の単身世帯の増加が予測され、また、共働き世帯も増加すると推察されることから、カット野菜、冷凍野菜、野菜惣菜の購入(消費)は増加傾向が継続すると推察される。



### Ⅲ 市場規模の推計

#### 1. カット野菜

経済産業省の商業統計及び商業動態統計、機構が集計したスーパーのPOSデータ販売金額により「カット野菜製造段階の市場規模」を推計すると、平成24年度カット野菜需要構造実態調査事業報告概要（平成24年1月）で推計された「サラダ・カット・キット」では、平成23年の約1,330億円から26年は約1,910億円、28年は約2,320億円と拡大傾向で推移し、29年は惣菜サラダからサラダへ需要がシフトしたことなどから約2,420億円に拡大し、30年も約2,780億円に拡大したと推計される。一方、サラダ・カット・キットに惣菜サラダを加えた推計では、23年約2,140億円、26年約3,050億円、28年約3,690億円と拡大傾向と推計されたが、29年はサラダへ需要がシフトしたことなどから約3,520億円と縮小したものの、30年は約3,960億円と再び増加傾向となったと推計される。また、原料野菜の市場規模は、同報告概要で示された原価率0.45を用いると、30年のサラダ・カット・キットの合計では約1,250億円、惣菜サラダを加えた額では約1,780億円と推計される。

表 14 カット野菜（サラダ、カット、キット）製造段階の市場規模推計

平成26年商業動態統計			平成26年商業統計		
	百万円	備考		百万円	備考
スーパー販売額	13,369,938	α A	総合・専門スーパー販売額	28,382,263	B
うち飲食料品販売額	9,071,134		推定飲食料品販売額	19,256,582	C=B×A
飲食料品販売額の割合	0.678		機構POSスーパー飲食料品販売額	793,415	D
			うちカット野菜販売額	3,126	E
			カット野菜販売額割合	0.00394	F=E÷D
			スーパーの推定カット野菜販売金額	75,870	G=C×F
			推定値入率	0.3	H
			カット野菜の推定スーパーへの納品額	53,109	I=G×(1-H)
			カット野菜のスーパーへの販売額割合	0.28	J
			カット野菜製造の推定市場規模	190,463	I÷J
平成30年商業動態統計					
スーパー販売額	13,160,939	β	推定飲食料品販売額	20,867,968	C×(β÷α)
うち飲食料品販売額	9,830,204		機構POSスーパー飲食料品販売額	806,069	
			うちカット野菜販売額	4,273	
			カット野菜販売額割合	0.00530	
			スーパーの推定カット野菜販売金額	110,622	
			推定値入率	0.3	
			カット野菜の推定スーパーへの納品額	77,435	
			カット野菜のスーパーへの販売額割合	0.28	
			カット野菜製造の推定市場規模	277,703	

資料：経済産業省「商業統計、商業動態統計」

機構「平成24年度カット野菜需要構造実態調査事業報告概要」による推定値入率及びカット野菜のスーパーへの販売割合

## 2. 冷凍野菜

一般社団法人日本冷凍食品協会が公表した冷凍食品の国内生産額及び輸入額に基づき平成30年の冷凍野菜（冷凍、冷凍調理、野菜を使用した冷凍調理食品）の市場規模を推定すると、30年は安価な輸入冷凍野菜及び輸入冷凍調理食品が増加し、国産冷凍野菜生産額及び国産冷凍調理食品生産額が減少したことから、29年の約3,780億円から30年は約3,680億円と縮小したと推計される。

一方、原料野菜の市場規模は、原価率をカット野菜と同じ0.45と仮定すると約1,660億円と推計される。

表 15 平成 30 年冷凍野菜の市場規模推計

	百万円	備 考
国産冷凍野菜生産額	22,076	
冷凍野菜輸入額	58,731	冷凍野菜輸入金額195,121百万円×冷凍農産物国内生産金額の家庭向け割合30.1%
国産冷凍調理食品生産額	238,822	コロッケ、てんぷら、かき揚げ、ハンバーグ、ミートボール、焼売、餃子、春巻、中華饅頭、たこ焼、お好み焼、中華惣菜等
冷凍調理食品輸入額	48,308	フライ類以外(ハンバーグ、たこ焼き、お好み焼等) ただし、野菜を使用していないものも含む。
合 計	367,937	

注：（一社）日本冷凍食品協会の国内生産額、輸入額のデータ（平成30年）を基に、備考欄に記載した算出方法と該当品目の集計を基に機構が推計した。

## 3. 野菜惣菜

一般社団法人日本惣菜協会の推計によれば、惣菜（惣菜サラダを含む）の市場規模は、29年10兆555億円、30年10兆2,518億円と、28年9兆8,399億円から増加傾向となっている。

一方、本調査のPOSデータの30年における惣菜（惣菜サラダを含む）の販売額に対する野菜を主体とした惣菜（惣菜サラダを含む）及び野菜を使用した惣菜（餃子等）の販売額の割合は、58.5%を占めることから、野菜惣菜及び野菜を使用した惣菜における市場規模は、5兆9,970億円と推計される。

また、機構が27年度に実施した惣菜に係る「需要構造実態調査」によれば、惣菜販売額に占める野菜仕入額の割合は14.0%であることから、30年の惣菜原料野菜の市場規模は約8,400億円と推計され、28年の推計値7,560億円、29年の推計値8,200億円から増加したと推計される。